會報

第 6 号

滋賀県老人大学校同窓會

会報　第六号

目次

一、あいさつ　会長　中川　長三　……1
一、発刊を祝して　学校長　稲葉　稔　……2
一、辞任に際して　国松佐三郎　……3
一、同窓会沿革　……4
一、会務報告　……5
一、会計（決算・予算）　……6
一、支部活動報告
　。大津支部　高野　惣平　……8
　。湖南支部　林　秀一　……9
　。近江八幡支部　中嶋庄右衛門　……11
　。湖東支部　塚本源太郎　……12
　。湖北支部　宮崎　程彦　……13
　。彦根・愛知犬上支部　近藤辰次郎　……14
　。高島支部　岸田　七次　……14
一、会員現況
　。思いのまま
　　一期生　大津　下司　清　……15
　。照千一隅
　　二期生　大津　竹中　久作　……16
　。ご挨拶
　　三期生　大津　桑野　大　……17
　。学友城野弥三さん
　　三期生　大津　増田　三郎　……18
　。日々雑感
　　三期生　大津　西尾　公子　……19
　。冠句「わかば会」
　　四期生　大津　大林　重信　……19
　。想い出
　　一期生　湖南　橋本　郡次　……21
　。私の申し上げたきこと
　　三期生　湖南　伊藤　博祐　……22
　。老大三期生の思い出
　　三期生　湖南　嶋　鉄男　……23
　。老大生は最高
　　四期生　湖南　後藤猪三郎　……24
　。三円の厳しさ
　　五期生　湖南　川嶋　勇　……25
　。高齢者の健康対策について
　　五期生　湖南　大西　憲司　……26
　。思いのまま
　　五期生　湖南　村川増治郎　……26

。われわれの聯かの誇り
三期生　湖南　伊藤　博祐　……27
。老後を豊かに生きるため
五期生　湖南　石田　義雄　……29
。心身の健康
一期生　甲賀　丸市　喜好　……30
。浄遊一瞬の夢
三期生　甲賀　谷口　三郎　……33
。生き甲斐の模索
四期生　甲賀　林　長夫　……34
。公開講座に参加して
四期生　甲賀　島田寅治郎　……35
。今日の感謝生活
五期生　甲賀　宿谷　光次　……36
。土山町文化財の照会
五期生　甲賀　金山　良吉　……36
。想った儘
二期生　近八　中嶋　實　……37
。誇りある老い
二期生　近八　宇野よしゑ　……38
。陶芸学科三期生の近況
三期生　近八　吉川保三郎　……39
。思いのまま
五期生　近八　服部　貞一　……40
。雑　感
五期生　近八　西川　謙逸　……40
。老大に学びて
六期生　近八　村井　繁一　……41
。私の視た今昔
六期生　近八　小林　嘉蔵　……42
。思い出のままに
二期生　犬上　元持孫太郎　……42
。役　割
三期生　彦根　辻　幸夫　……43
。蕗のとう
三期生　犬上　西山弥一郎　……43
。ゲートボールに寄せて
五期生　犬上　西沢　正三　……44
。老大から老人クラブへ
二期生　湖東　川部伊三郎　……45
。よい仲間を作りましょう
五期生　湖東　平田　タツ　……45
。思いつくままに
六期生　湖東　犬井　富美　……46

○雑　感
七期生　湖東　森本芳兵衛　……47
○黄金の暇
六期生　湖北　広部庄太郎　……48
○歓　び
六期生　湖北　中川寿美子　……48
○忙中閑あり
七期生　湖北　広部　富子　……49
○私の近況
二期生　高島　三矢　博子　……49
○安曇川陶芸教室
七期生　高島　駒井徳左ヱ門　……50
○友は今ー
二期生　愛東　山本清左衛門　……51
一、会　則　……52
一、六十二年度役員　……55
一、編　集　後　記　……56

ご挨拶

会長　中川長三

敬愛する同窓諸兄姉。弥々ご健勝にて、それぞれの地域社会の、よきリーダーとしての逞しいご活躍。まことにたのもしく嬉しい限りです。

さて母校滋賀県老人大学校は、昭和53年10月開設以来将に十周年をむかえんとして校運のいよいよ隆昌はまことに同慶の至り。老人大学本来の設置目的たる高令者の社会参加を促進するための施設として、①学習機会の提供。②社会参加の基礎づくり。③地域社会に於ける活動のリーダー養成等につとめつゝあり、既に五六三名の卒業生を輩出し二一二名の在校生を擁する盛況にあります。

この成果が高く評価されて、県当局も困難な財政下昭和62年度当初予算に五三七万円の増額を計上され総経費一五九三万四千円をもって県老ク連委託のもとに本年度は特に、①学習時間を五割程度増加。②学習基本計画の抜本的見直し（カリキュラムの検討）③講師陣営の充実（量的充実・特別講座の充実）④助手制度の採用（卒業生の活用）⑤事務局体制の充実。等を重点目標として強化運営されることになっています。尚昭和63年から米原カルチュアセンターに於ける開講も予定されています。

母校のこのような盛況に対し同窓会も相呼応して組織機構の整備をはかるため、研修部（学習・公開講座）。総務部（事業・予算・企画・総会）。広報部（会報・啓発ＰＲ）の三部にそれぞれの人材を配して底辺の拡充を強化し発展を期することとなりました。

尚財政面の強化のためＢ会費による終身会員制度についても漸次その実を挙げつつあります。

このたびのこの会報第六号は新らしい組織による初編輯・初出版であります。林部長さんを中核に部員の一方ならぬお骨折のもと、みなさんから寄せられた原稿を、巧みにアレンジし、ユニークで親しみやすくしかもいくつかの示唆に富んだハイクラスのものと考えます。

どうかこの会報が、複雑多難な時勢下老大卒業生の本然の使命達成の大いなる糧（かて）となることを冀（こいねが）いつつ、会員・同窓会・母校の弥栄を祈り、発刊のことばにかえます。

第六号会報の発刊に寄せて

滋賀県老人大学校長　稲葉　稔

滋賀県老人大学校同窓会会報第六号が発刊されますことを、心よりお喜び申し上げます。

昭和五十五年に老人大学校卒業生のみなさんが集い、同窓会が創立されてから、はや七年を迎えようとしています。

その間、同窓生のみなさん方におかれましては、老人大学校の精神を踏まえ、地域社会におけるリーダーとして日々御活躍いただいておりますことに、心から敬意を表したいと思います。

さて、本格的な高齢社会を迎えようとする我が国において、老人福祉はすべての人が考え、対処していかなくてはならない重要な問題となってきています。人口の高齢化は家族の在り方をはじめ、地域社会や各職域など社会システム全般にわたりさまざまな問題を提起しております。真に豊かな生きがいのある長寿社会を築くためには、こうした課題を県民すべてに共通のものとしてとらえ、世代を超えて取り組まなければならないと思いますし、県でも、その観点に立ち、レイカディア十か年プランを推進しているところです。

このような状況の中では、高齢者自身もその持てるエネルギーを社会に還元し、新しい時代に即応した高齢者像や生活設計あるいは生きがいを創造し、自ら積極的な生き方をすべきであることはいうまでもありません。

老人大学校は、以上のような高齢者を取り巻く諸課題を先取りする形で、昭和五十三年度に開校したもので、みなさんがたはそのパイオニアであります。

今後とも更に学習を深められ、自己をみがいて、ますます元気で御活躍をされるとともに、同窓会が相互の交流を深め、互いの研鑽の場として、いよいよ発展されますことを衷心より祈念いたしましてお祝いのごあいさつといたします。

昭和六十二年五月

辞任に際して

国松　佐三郎

県老人大学校は、昭和五十三年九月から園芸学科・陶芸学科・生活科学学科・福祉学科・一般教養の課程を組んで開校されたが、初代関係者は、この課程編成をはじめ大学校全般の経営・運営面について、何をどのように進めれば望ましい学校像が実現するのかと、頭を悩ましたと語られる。

開校の翌年に二年制になったことは敬意の至りであるが、一年間の体験から二年制を必要とされたと思うと、初代関係者のご苦労が偲ばれて、卒業生・在校生皆様とともに感謝の意を表したいと思う次第である。

ご苦慮があって老大基盤ができたところへ、嘱託として勤務させていただいた私であり、辞任させていただくまでの七年間は、気分もよく楽しい日々であったので、一般教養講師にお迎えした林霊法座主のお言葉を拝借して、この世への第一誕生、現職への第二誕生、退職後に老大就任への第三誕生と、まことに順風に出帆した如き生き方を遂げさせていただいたと言いたい。それだけに、感謝の心を燃やし、老大勤務の誇り高さを温め続けている今日である。

老大一期生は、学校基盤整備中の作業者、二期生もまた作業者、三期生は、ようやく自主活動を手がけた建設者、四期生が第一回模擬議会、五・六期生で知事対話と第一回作品展をと基盤固め役、七期生が第二回模擬議会準備や七期会を結成、八期生で第二回議会実行と八期会結成、さらに七・八期生で社会参加編集物刊行等、学生会懸案点の遂行成り、自主体制も確立したと思うと、現九期に至る間の皆さんの積み上げに頭が下る。

同窓会活動としての功績は、何と言っても、昭和六十年十二月県議会において、老大拡充発展に関する請願が採択され、中西座長（元副校長）様を中心とした検討委員会の答申の成果が示された慶事を見たことにあり、今老大は第二の誕生を果したと、祝意が尽きない今日である。今後とも目的に向ってより前進いただくことを念じている。

勤務を支えていただいた県ご当局関係の皆様・県老ク連関係・老大事務局皆様・講師諸先生・同窓会皆様・在学生の皆様・関係の皆様有難うございました。ご健勝を祈念し、謝意を捧げお礼の辞といたします。

同窓会沿革

年・月・日	摘要
S55・9・22	○滋賀県老人大学校同窓会の設立総会を、草津市社会福祉センターにおいて、第一期卒業式終了後に開催。 会則案の審議と承認。 役員選出
12・1	○同窓会役員会開催 会則第五条（事業）の具体化について協議 第一回総会日程決定　（S56・3・25）
S56・2・21	○理事会開催 総会日程の決定 予算案の審議と作成（別表） 会報形式の決定と執筆要領の決定
3・25	○第一回総会開催（草津） 会務報告 予算案の審議と承認 当日の老大公開講座に出席し研修する。
S57・2・1	○役員会
2・19	○会計監査

年・月・日	摘要
S57・3・8	○第二回総会開催（草津） 会務報告 予算・決算の承認 当日の老大公開講座に出席し研修 総会後懇親会　於あたか飯店
12・14	○役員会
S58・3・17	○会計監査 ○役員会 総会日程の確認 会計決算・予算の審議と作成 昭和五十八年度役員選出
3・24	○第三回総会開催（大津） 午前中　発表会・議事 午　後　懇親会
S59・5・16	○第四回総会開催 於　彦根市民会館
S60・5・16	○第五回総会開催 於　近江八幡国民休暇センター
S61・5・7	○第六回総会開催 於　長浜湖北農業会館

会務報告

年・月・日	摘要
S61・4・4	○役員会 ・総会提出議案の協議（会則改正案） ・会長、副会長の選出 ・総会出席動員の協議
S61・5・7	○第六回総会開催 （於　長浜湖北農業会館）
S61・9・5	○豊かな老齢化社会を考える会の県民の集い （於　大津市民文化会館）
S61・10・23	○湖東支部総会
S61・11・6	○役員会 ・会則第六条（事業部）実施の件について ・総会開催に関する件の協議
S61・11・17	○湖南支部総会
S62・2・20	○彦根・愛知・犬上支部総会
S62・3・27	○公開講座 （於　県立婦人センター）

年・月・日	摘要
S62・4・6	○役員会 ・会則第七条の改正について（事業部） ・各部会の構成と部会長の選出 ・会報の発行についての協議 ・会計収支決算について （六十一年度） ・予算案について（六十二年度） ・総会の開催についての協議
S62・4・9	○大津支部総会
S62・4・30	○会報第六号の編集会議
S62・5・13	○総務会 ・総会の次第について ・総会の案件について ・懇談会の内容について ・その他

昭和61年度会計収支決算報告（案）

（S 62. 3.末現在）

＜収入之部＞

区分	予算額	決算額	差引増減額	摘要
会費	365,000	469,000	104,000	
繰越金	383,967	383,967	0	
利息	2,033	1,379	△ 654	
雑収入	0	0	0	
合計	751,000	854,346	103,346	

＜支出之部＞

区分	予算額	決算額	差引増減額	摘要
報償費	10,000	10,000	0	本部事務職員期末謝礼
旅費	20,000	8,100	11,900	支部総会会長旅費
会議費	50,000	32,500	17,500	
食糧費	40,000	28,100	11,900	
賃借料	10,000	4,400	5,600	
総会研修活動費	360,000	223,000	137,000	
助成費	30,000	49,000	△ 19,000	
印刷製本費	300,000	144,000	156,000	会報（第5号）
賃借料	30,000	30,000	0	
慶弔費	45,000	15,000	30,000	支部総会祝金
役務費	15,000	4,210	10,790	
通信運搬費	15,000	4,210	10,790	
需用費	26,000	850	25,150	
印刷費	20,000	0	20,000	コピー、ゼロックス
消耗品費	6,000	850	5,150	ゴム印
退職積立金	10,000	10,000	0	
予備費	215,000	87,000	128,000	・国松先生退職金 30,000 ・くり出し金 40,000 ・七期生支部会宛 17,000
合計	751,000	390,660	360,340	
差引残高	854,346－390,660＝463,686		次年度繰越	

各会計の収支決算については、収支決算書にもとづいて、諸帳簿証憑書類について、対照精査した結果、いづれも正確に処理され適正であったことを認める。

昭和62年5月7日　　監事　嶋　鉄男　　監事　大西憲司

昭和62年度会計予算案

＜収入之部＞

区分	本年度予算額	前年度予算額	差引増減額	摘要
会費	335,000	365,000	△ 30,000	1000×335人
繰越金	463,686	383,967	79,719	七期生95人分含む（95,000） 〃 支部会費7,000含む
利息	1,500	2,033	△ 533	
雑収入	0	0	0	
合計	800,186	751,000	49,186	

＜支出之部＞

区分	本年度予算額	前年度予算額	差引増減額	摘要
報償費	30,000	10,000	20,000	(本部事務職員期末謝礼)
旅費	20,000	20,000	0	支部総会会長旅費
会議費	50,000	50,000	0	役員会、事業部会
食糧費	40,000	40,000	0	
賃借料	10,000	10,000	0	
総会研修活動費	415,000	360,000	55,000	
助成費	75,000	30,000	45,000	事業部45,000、講師費30,000
印刷製本費	300,000	300,000	0	会報（第6号）会員名簿
賃借料	40,000	30,000	10,000	総会会場費 等
慶弔費	45,000	45,000	0	支部総会祝金
役務費	15,000	15,000	0	
通信運搬費	15,000	15,000	0	
需用費	30,000	26,000	4,000	
印刷費	20,000	20,000	0	
消耗品費	10,000	6,000	4,000	
退職積立金	10,000	10,000	0	
予備費	185,186	215,000	△ 29,814	
合計	800,186	751,000	49,186	

大津支部活動状況

副支部長　高　野　惣　平

当支部は昭和五十九年十一月三十日設立されたが同窓会員は七十二名であった。老大も既に第七期の卒業生を迎えた今日年々増加し当支部の昭和六十二年四月一日現在会員は一一二名となりました。大津市はびわ湖に沿って南北に四五・六キロ東西に二〇・六キロと細長く伸びている特有の地形である関係から会員を八ブロックに別け支部活動と会員相互の連絡を計り、従来の学年別学科別と併行して会員の親睦と教養の向上に努力しております。当支部の昭和六十一年度における活動状況について申し述べます。

六十一年四月九日　大津市老人福祉センターにおいて、当支部第二回定期総会を開催。来賓として県同窓会長中川長三氏他三名、会務報告並に事業計画（案）、六十年度決算報告並に六十一年度予算（案）等審議の結果全議案について満場一致をもって可況承認を得ました。引続いて懇親会に移り各期各科別グループの話に花が咲き賑やかになり、酒が入るにつれ演歌に舞踊に多数の出演者があり和やかにしかも盛況裡に終了できました。当日出席者七十三名

六十一年五月七日　県老人大学校同窓会が、長浜市の湖北農業会館において開催されたので、当支部から二十一名が出席しました。「幸せの条件」と題し文博藤田義憲先生の講話を聴き感銘を深くし引続いての懇親会には地元湖北支部役員のご配慮により楽しい一時を過ごすことができましたことを感謝します。

六十一年五月十日　市老人福祉センターにおいて役員会を開催当日の主たる議題と決議事項は①春期行事としてゲートボール大会の開催について、協議の結果次のとおり決定した。出席者十三名

①日時　五月二十五日午前九時から

②場所　尾花川運動公園

③　準備のため世話役五名を依頼した。

六十一年五月二十五日　支部ゲートボール大会開催、出席者三十二名で六チーム編成で試合はトーナメント方式、初めてステックを持つ人もあって珍プレーが出るやら、熟練者の名人芸が出るやらで一日中楽しく和やかに試合を行なうことができ優勝チーム（中部第三ブロック）にトロフィの授与が行なわれた。

六十一年十月十七日　市老人福祉センターにおいて役員会開催当の議題と決議事項は①秋期行事として研修会（社会見学）の実施について、②支部規約の一部改正について、③支部ブロック別会員名簿の作製について、協議の結果次のとおり決定しました。出席者十九名　執行部が提案した前記三項目について

①秋期行事は十一月二十七日、一燈園・京都市山科区四ノ宮見学

②支部規約及び支部ブロック別名簿については庶務担当者にて作成のうえ後日再検討

六十一年十一月二十七日　一燈園の見学と講話、「西田天香さんと一燈園の精神について」と題して当番西田武氏より一時間余の講話を拝聴した。一燈園は明治三十八年西田天香さんの創始によるもので、自然にかなった生活をすれば、人は何物をも所有しないでも、また働きを物に換えなくても許されて生きられるという信条のもとに常に懺悔の心を以て無所有奉仕の生活を徹底して行じている処であることを解り易く平易な言葉での話しに一同深く感銘しました。昼食後懇談のうえ園内の施設を見学し有意義な一日を過ごし研修目的にふさわしいものでありました。出席者七十五名。

六十二年一月三十日及び二月二十日の両日　市老人福祉センターにおいて役員会を開催、当日の議題と決議事項は①支部第三回定期総会の開催について、②役員改選について、協議の結果次のとおり決定しました。

①支部定期総会は四月九日、大津市老人福祉センター

②役員改選について再度選考委員五名と協議することとなった。

以上当支部の昭和六十一年度における活動状況を報告いたします。

湖南支部の現状報告

支部長　林　秀一

昨年（昭和六十一年）十一月七日、守山市つが山荘に於て、第三回湖南支部総会が開催され、不肖私　林秀一が支部長の重責を負う事となりました。

湖南支部にあっては旧来滋賀県老人大学校の卒業の時期に合わせ秋に総会をもって来ました。又規約により役員の任期は二年となっていて役員が留任ともなれば総会は極めて順調に運ばれてきました。処が昭和六十一年度は有能でしかも熱心であった伊藤博祐前支部長が健康上の都合から退任を申しでられ、其の意思は固く副支部長は欠員のまゝで在った事もあり、後任の人選については早くから役員会を開いて来ましたが、秋期には既に種々の役職に就いて居られ尚其の上に湖南支部役員を受けても良いと云う人には全く出会う事が出来ず、役員選考に係った私共が其の任では在りませんが止む無く引き受けざるを得なかった次第です。こんな経過もあり今後役員交替が無理なく行われる為に規約を改正して春期に総会を行う事にしました。又会計係を置き、地域一名の事務処理係を置く事としました。（一部未提案）。

今迄の第一回・第二回の総会では「もっと魅力ある会にしょう」と提言して来ましたが、さて自分が責任者になって見れば

魅力有る会になり、全員喜んで支部の行事に参加してもらえる事の困難さをひしひしと感じています。しかし、滋賀県老人大学校同窓会はどうしても魅力有る会にしなければならない使命をもっていると思います。何故ならば、老齢化の進む中で、逝く迄健康で呆け無い人生を送らなければ倖だとは言えないし、健康で呆けない為には、楽しく過ごした二ケ年の滋賀県老人大学校での若返っての勉学を忘れず「健康保持」と「生涯学習」を持続させ発展させねばならないと思うからです。

然してもう一つ重要なのは、地域老人クラブや老人クラブ連合会を賦活させる為には、より多くの滋賀県老人大学校の同窓生が必要です。即ち滋賀県老人大学校の建学の精神を忘れてはならないと思うからです。

最後に先進支部の御指導・御鞭撻と御援助を御願い申し上げ、湖南支部会員の皆様方の絶大な御協力と御支援を衷心よりお願いし、この稿の終りに、湖南支部役員表を掲載して綴じます。

滋賀県老人大学校同窓会湖南支部役員表

（昭和六十一～六十二年度）

支部長五期	林　秀一	草津	六二－五一四八
副〃五期	川嶋　勇	野洲	八七－一四四八
理事一期	橋本　郡次	野洲	八七－一六二一
〃三期	飯田　正巳	草津	六三－四一〇六
理事三期	中川　保二	野洲	八九－二五六五
〃四期	後藤猪三郎	栗東	五二－〇三六二
〃四期	稲村　直子	草津	六四－二八九一
〃五期	大西　憲司	守山	八三－一四二五
〃五期	村川増治郎	栗東	五三－六六四一
〃六期	小林　栄	守山	八二－二二八八
〃六期	森元喜久蔵	草津	六二－一七三七
〃六期	山原　義夫	草津	六二－二九二七
〃六期	野々口たつ	志賀	九二－一一〇三
〃六期	西田　三郎	野洲	八八－二六七七
監事三期	嶋　鉄男	草津	六二－〇三八三
〃三期	沢村銀一郎	志賀	九六－〇八六九
会計五期	村川増治郎	栗東	五三－六六四一
顧問三期	伊藤　博祐	草津	六四－六八八一

本部派遣役員

事業部	林　秀一	（広報部長）
〃	後藤猪三郎	（総務部員）
本部理事	林　秀一	
〃	後藤猪三郎	
本部監事	嶋　鉄男	
〃	大西　憲司	

近江八幡支部活動状況

支部長　中嶋　庄右衛門

昭和六十一年度支部活動状況の概要を報告する事と致します。

四月二十二日近江八幡老人クラブ憩の家にて役員会を開催。出席者十二名

協　議　事　項

一、昭和六十一年度定期総会開催に付いて、（五月一日(木)　滋賀県厚生年金休暇センターにて開催決定）

二、会則改正の件

三、支部・県・会費徴集の件

四、支部県総会参加者の確認と参加費の徴集について

五、会報第五号発行について

六、其の他

五月一日十時滋賀厚生年金休暇センターに於て昭和六十一年度総会開催。

来賓として早朝遠路中川会長を始め近江八幡市民生部長、市老ク連会長殿各位の御臨席を忝くし鄭重なる祝辞を賜り恐縮に存じております。会員の出席四十名にて型通りの総会行事ではありますが終始スムーズに原案承認可決されまして会員各位の協力に感謝しております。

最後に其の他の項に於て親善ゲートボール大会を、又研修会を開催せよと盛上りの非常に嬉しい要望意見がありまして執行部として前向に実現に努力する事を確約解答し拍手裡に総会を終了す。

総会終了後例により懇親会を別席にて初代会長中嶋相談役の元気溢ふるゝ発声により乾杯宴たけなはにカラオケも出るやら何時しか時は過ぎ盛会裡に三時解散す。

五月七日長浜市湖北農業会館に於て滋老大同窓会定期総会開催される。支部長以下十一名出席す。

中川会長の式辞及び名議長振りには全く感服の他なく原案可決承認される。

七月七日支部会報第五号編集会議役員四名出席、大凡四十頁位になり号を重ねる毎に内容も充実しつつあるの感あり、午前中にて終る。

八月二日会報第五号印刷製本完成会員に配布県下各支部、老大事務局、市福祉各学区老ク連へも発送す。

九月二十五日役員会開催、出席者十三名

親善ゲートボール大会開催について左記の通り決定す。

一、日　時　十月三十日、晴雨不論

二、場　所　土山町かもしか荘

三、企画幹事　服部会計氏

四、申込〆切　十月十日迄に各学区毎に参加費を添えて服部氏へ申込み下さい。

注、本計画、実施等一切服部氏が責任者でやって下さいますので宜敷しく願います。

十月三十日親善ゲートボール大会、参加者二十三名

服部氏の周到綿密なる計画に依り往きのバスの中にてチーム分け抽選下車と同時に即試合開始午前中に三試合場所も風蔭の南側で日当りも良く暖いコートで和気靄々昼食時には各自個々に一寸一杯其の味覚も山の幸も混じへて格別なものがあり午后は四試合で三時三十分終了復路バス中にてはカラオケも出るやら本当に賑やかにて又近いうちに計画されたいとの希望が続出親善ゲートボール大会は予期以上の成果ありて企画実施責任の服部氏に満腔の敬意と感謝の意を表する次第であります。

十一月十三日会員の第四期生園芸科卒の前出幸一郎氏逝去される謹しんで哀悼の意を表しご冥福を祈ります。

二月十日第七期生文芸学科卒会員北川伊太郎氏本家火災の為御見舞申し上ぐ。

三月八日会員第五期生生活科学科篠原陶氏逝去される謹しんで哀悼の意を表しご冥福を祈ります。

三月二十七日県立婦人センターに於て滋老大公開講座開講される支部役員早朝より準備協力し会員多数聴講す。

公開講座終了後支部三役会議を開催す。

協議事項支部総会のアウトラインについて意見交換し特に今年度は研修の意を持って総会終了後講演会を開催する事を予定す。

湖東支部の現況

五個荘町　塚　本　源太郎

湖東支部も支部結成以来、早や三年目を迎えることになり会員数も現在五十六名になり組織の拡充と会員相互の親睦を図り、教養を高め福祉の向上に努めつゝあります。

昭和六十二年度は、県老人大学同窓会の定期総会を当番支部として引受け、五月二十三日午前十時三十分より風光明媚、霊けん新たかな八日市市太郎坊参集殿に於て開催し、折角の機会を意義あらしめ、出席会員に来てよかったと喜んでもらえる会場設営、輸送等に万全を期した次第です。湖東支部は八日市市、蒲生、神崎郡の一市七ケ町村で組織しています。昭和六十二年度の役員構成は次の通りです。

支部長	畑中保治郎	（竜王）	四期園
副支部長	川瀬清治郎	（八日市）	三期園
同	塚本源太郎	（五個荘）	四期園
県理事	山本秀夫	（竜王）	六期陶
庶務会計	山上久一	（竜王）	一期陶
会計監査	森野重太郎	（能登川）	三期園

会計監査　嶋崎保太郎（八日市）二期文
分会長　遊佐幸吉（八日市）四期陶
同　高倉嘉平（蒲生）四期園
同　端藤兵衛（永源寺）五期園
班長　大道喜一郎（日野）四期文
同　村田挙二（蒲生）七期陶
同　森本芳兵衛（安土）七期文
同　山村太兵衛（五個荘）六期文
同　川端正夫（能登川）二期文

支部の事業計画としては、役員会を年二回行ない会員の親睦を図るため、懇親会を兼ねゲートボール大会を年二回行なう。尚支部定期総会は十一月中旬に安土町を会場にして開催の予定である。

私達老人大学卒業後は同期、同学科別にそれぞれの機会を設けて集まり、懇親を深めると共にお互の教養を高めつゝあることは誠に結構なことではあるが、然し一方で高齢化社会が進む中で地域社会の発展のため老人大学卒業生が如何に活動し貢献しつゝあるかを考える時、老人大学で二年間学習した尊い経験を同好グループでもって地域社会活動や奉仕に生かすよう考えなければならないのではなかろうか、老人の生きがいもそうすることによって生れることである。

湖北支部の現状

宮崎程彦

同窓会湖北支部結成して早三回目滋賀県老大同窓会総会を迎える時期に当り湖北支部の会員の皆様方を始め県内各支部会員の方々に浅学非才の私の様な支部長より報告する事を考えます時誠にはずかし味を感じます。私は私なりに英智を絞り全力投球の気持ちでやって参りました。支部結成以来過ぎ去った足し跡を振り返って見た時結成時は会員で二十九名（一期ー五期）が現在は四十一名（一期ー七期）となり当支部の会員数から見て滋賀県老大同窓会の前途は明るく益々発展する。我が国の急速に高令化社会に移行する世相に大変喜こばしいことと思います。老年期をいかに生きがいを求めるかと云う国民的課題に取組んでいかなければと云う試練の時を迎えるにあたり、勉学人間関係と親しさを求め親睦の向上を考える時自然老人大学の持つ意義が生れ、それが同窓会の発展にもつながって来ると思います。それ故に会員各位は各自の毎日の日暮を精進されんことを祈り致す以第です。湖北支部も結成以来良き親交の仲間を結成して、まだ日も浅いのに六名の方々の物故者を送り誠に支部としても悲しい思い出となっています。残る現在四十一名の会員がおられますが過去の在学時代の元気さも余りなく寄る年波とは云え会員一同が集まると云う様な事は一寸望めず淋しいの

が湖北支部の現状の姿です。それで支部運営をあづかっている私としては時間があれば遠路はかまわず各会員の御家庭に家庭訪問を致し本人は元より家族の方々に面談して連絡事項、会員の方々の様子をお話し、病状の方々には御見舞励ましの言葉を述べて会員の方々の現状は常に把握して支部運営しています様な事で色々支部活動を考えますが、それが実行出来ないのが支部活動の現状です。新会報が今回発刊されるので他支部の長所を取り入れ他支部に負けない支部として行きたい考ですので皆様方の御指導を仰ぎ同窓会の目的達成に努力いたし会員各位の象知を結集し価値高い同窓会にしていきたいと考えますので皆々様の御協力を切にお願い申し上げます。老大同窓会湖北支部の発展を誓い皆々様の御健勝をお祈りし湖北支部の現状報告と致します。

彦根・愛犬支部の現状

支部長　近藤　辰次郎

滋老大支部制の発足以来早や三ケ年を経過しました。当時支部長をお受けして以来会報を二回発行した程度で今日に及んでおりまして申訳けなく思っております。昭和六十一年度の本支部総会を遅ればせ乍ら本年二月二十日開催、当日新会員（七期）を含めて六十一名中出席者三十四名、彦根市老ク連福祉センターを会場に中川同窓会長の御出席を得て盛大に開催する事が出来ました事に対し誌上を借りまして厚く御礼申し上げます。出席者皆様の活発な御意見により親睦と教養を高めるために努力しお互豊かな人生経験を生かし福祉施策に甘える事なく、社会に奉仕する事に意見一致し、会報第三号の発行に対し、出席者全員、自己の近況・俳句・短歌等の原稿を必らず提出する事に決定した。

彦根市は市政五十周年の記念の年であり彦根城築城三百八十年協賛事業として80年世界古城博覧会が三月二十八日より五月三十一日迄六十五日間開催中であり、皆様の御協力をお願するとともに、同窓会としても、同期同科の親睦と継りは深いが支部全体としての親睦にはまだまだ一考を要する問題であり同窓会の発展のため、一段と協力する事を申合せ散会した。

高島支部の現状

支部長　岸田　七次

滋賀県老人大学校同窓会高島支部を六十年六月結成以来早二年を経過となりました。設立当初の支部長井口章夫氏が一年で退任されましたので昨年六月十五日総会で支部長の選任を受け

就任致して居ります。現在会員は高島町十名、安曇川町六名、新旭町四名、今津町六名、朽木村一名で総員二十七名であります。役員は

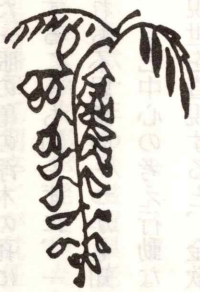
支部長　岸田七次（安曇川）二期文
副支部長　采野平重（今津）五期文
同　四畑義雄（今津）四期園
常任幹事　森三郎（新旭）四期文
監事　小川孝雄（朽木）一期福
同　欠員

以上六名にて構成しています。これが現在の状況です。

支部総会の経過

第一回設立総会　六十年六月七日　新旭町岡田屋
第二回通常総会　六一年六月一五日　新旭町鶴亀楼

卒業後久し振りに同期生との再会出来和やかな雰囲気に包まれお互いに健康で生き延びる倖せをたしかめ合った。今後この有益な心の支えの会を益々充実会員相互の友情を深め度いものです。



会員現況

―大津支部―

思いのまま

一期生　下司　清

キンコン、キンコン、キンコン、ある夜突然、仏間で鐘が鳴った、時計を見ると午前〇時五十六分である、約三十秒程度鳴っていたが澄みきったすばらしい音色である。

先輩に話すと「三七日間経巻を読誦せよ」との事であった、吉か凶か判断に困ったが夜中の事だから霊界からの事だと想像はできる、霊界の修業は夜中になされると聞いていたが、娑婆世界の修業も同じだと思う、丑の刻参りもその一例であろう。

早速二十一日間の業に入ることを決定して、午前〇時から二時半ごろまで経巻を読誦した、二十一日間の業が終っても、相変らず夜中になると鳴る、旅行先や、田舎へ行って寝ているとやはり、キンコン、キンコンと鳴っている、世にも不思議なことがあるものだ。

南無東方善徳仏、三世の諸仏の守護したまう所なり、衆魔群道得入すること、有ること無し一切の邪見生死、之壊敗せられず、と経巻の一節を思い出す。

また、仏には値いたてまつること得難し、優曇波羅華の如く

また一眼の亀の浮木の孔に値えるが如し。世の中にはお経を読誦することも知らずに、一生を終る人が多いが、私から見ればこれも不思議の一つかも知れない、誠に失礼な申し方であろうが、自己中心の考え行動など悪世末法そのもののようだ。

現世を直視すると、金欲や、地位、名誉の追求のみの社会のような気がする。小欲知足、今さらそんなことと思はれるかも知れないが、大切な事ではなかろうか、テレビでよく見るが「先祖を大切にせよ」と、私も以前からこの事を話している、己が善を積み重ねておかないと、子孫も同じ道をたどる。

経文や、昔の教育勅語に、父母に孝養と云う言葉がある、年配の人に「失礼ですがあんた親孝行してますか」「親は死んでいるのにどうして孝行できる。墓参りはするが」と云う人が多い中には無神論者だと称する人もいる。先祖供養が親孝行なのだ。科学が発達すればする程、人情が流れて行くように思われる

鐘の音は七ケ月で終った、やはり霊界より死霊信士、信女合せて六十名が見えていたことが判り、家族一同安どした。テープにとって大切に保管している。

照千一隅

二期生　竹中久作

照千一隅は周知のように、比叡山延暦寺を開いた。伝教大師が書した「天台法華宗年分縁起」（国宝）の中の一節です。国宝とは何物ぞ。宝道心なり。道心ある人を名づけて国宝となす。故に古人言く。径寸十枚これを国宝に非す照千一隅、これ即ち国宝なりと。傍点を付した個所について従来は「一隅（を）照らす」と読まれていましたが、最近の研究では原本が「千」になっている以上千里を照らし一隅を守るの意に訓むべきであるとの意見が出され、論議をよんでいます。いづれにしても京都勧寺信忍氏。代筆「照千一隅」の軸は、「バランス」といい筆勢の力強さといい胸に迫る墨筆であります。さて今年の正月二日のこと、初詣でに出掛け、国分峠にさしかかる手前に、落葉の吹きだまりがあり、それが煙を上げて炎えて来るではありませんか、自転車を降りて、そこいらの板切れにてたたき消し土をかけて、さて原因はと、考えるとき。「タバコ」の「ポイ」捨てである事に気付き今一歩遅ければ山火事になっていたかと思うと空恐しい思いがするやら腹が立つやら。マイカードライバーのマナーが思いやられます。近江神宮の参拝も終え、石山寺山門前を通り在所道へかかると、行く先に赤い小型常用車が止り何か置いている動作が見えたので、急いで追って見ようと

思っていると運転者が車に飛び乗り逃げる様に去っていったので、車体「ナンバー」も確認出来ず捨ててあったものは、所もあろうに、他家の入口で正月掃除の行きとどいた家なので尚々腹の立つ新年早々の出来事が思い出されこの頃の人間共の心理状態がうたがわしく不愉快でならない。そんなことばかりも考えておれず、短歌・俳句・書道・水墨画・コーラスと日々を愉快に過す様同志と共に楽しむ今日この頃です。左の短歌、俳句はつたない近作ですが読んでいただければ幸甚です。短歌二首

○世のうさも打ちわすれけり春の野にすみれつみつつ
孫とあそべり

○うす霞む大和国はら春たけて西のみ寺のはるかなるかも

俳句

○物忘れしつつ日永を恙なく
まだ残る膳所の武者窓桜咲く

御挨拶

三期生　桑野　大

昭和六十年の秋滋賀県老人大学校同窓会の組織が八支部に編成され大津支部が発足いたしました。初代支部長に菴原忠男氏（生活科第二期卒）が就任されました。菴原氏は同窓会活動に大変熱心で会則の原稿作成から第一回総会の次第等総て独りで作成し然も支部会員全員に信楽焼の立派な湯呑み茶碗を記念品として寄贈され物心共に身命を堪して努力して居られたのですが実に残念にも総会開催直前に発病され京都の府立病院に入院されました。その病状が非常に重くて到底短期間には回復不可能とのことで菴原家の若夫婦が私の宅まで来られて支部長の業務を交代するよう要請されました。諸般の事情を考察し又支部会員役員会にも報告緊急協議の結果副支部長であった私が業務を交代することになりました。菴原氏としては痛恨のことと拝察されますが事情止むを得なかった次第で不徳不敏の私が支部長の席を担うことになったのです。幸い副支部長の高野惣平氏知識シゲ氏始め会計の石島千代子氏其他理事監事及会員の皆々様の絶大なる御理解と御後援を得て支部活動は無事進捗し昭和六十二年四月九日の第三回総会を迎えるに至りました。これ全く関係各位の御鞭撻御援助の賜と肝に銘じて感謝いたしています。

第三回総会に於て中村標雄氏に第二代支部長に就任してもらいましてここに軌道を逸しかけて居ました支部活動も正常な筋道に返へり会員相互の親睦地域社会への貢献も益々拡大されることになりこれ以上の喜びはありません。

今後滋賀県老人大学校が益々充実発展し大津支部が大津市の皆々様と共に愈々その力を発揮して市民の幸福が増進されますこ

とを心から祈念しましてこゝに約二ケ年にわたる大津支部長在任中の諸賢の御厚情御後援に繰返へし深く御礼申上げて私の退任の御挨拶といたします。ありがとうございました。

昭和六十二年四月廿日

学友城野弥三さんのこと

三期生　増田三郎

○私が県老人大学校三期生として入学を許されたのは、昭和五十五年の十月であった。あれからもう七年、今でもありありと思い出すのは草津福祉会館での入学式の光景である。学校長である武村知事の開校の御挨拶が終り、三期生の名簿の最後に文芸学科新入生の名前が読み上げられた時、その何番目かに「城野弥三さん」の名前を聞いて私は思わず「はい」と返事された方を振り向いた。八十人余の新入生の中で同じグループで入学する人は別として、他の市町村からの人にこんな懐しい人が居られようとは、私は思わずそのお顔に向って軽く会釈した。城野さんもすぐ気付いて会釈を返された。

それからしばらくして式が終るのを待ち兼ねた様に二人は駆け寄って堅く手を握り合った。それは何年か振りの再会であった。

城野さんは年令は私より凡そ一廻りは年上であるが今から三十年以上も昔、その頃私が勤務していた電気器具の卸売会社の得意先で取引の事で度々近江八幡市小舟木町のお店へもお伺いし、奥様やご家族とも親しくご交際願っていた仲である。その後御子息弥一君が私の会社へ入社され、一緒に仕事をした事もあるし、又弥一君の結婚に際しては式に招かれて出席し祝辞を述べた事もある。

その後私が会社を退社した事もあって、自然に疎遠になり、それ以来何年か振りの久々の再会である。

城野さんは明治生れの人によく見る一見頑固とも思える古武士の様な気骨のある人で、私の密に尊敬する人の一人であった。それに美事な達筆でいつも感服し乍ら拝見していた。二年間を学友として親しく交際し卒業後も時々お会いしていたが、最後に御一緒したのはたしか五十八年の秋文芸学科のクラス会で湖東三山から永源寺へ参詣した時だったと記憶している。その後機会もなく、訃報を聞いたのは五十九年の十一月の末であったがたまたま私も脳出血で入院中であった為に詣りも出来なかった事は誠に残念である。最後の時に頂いた色紙が奇しくも形見となった。それは何故か「忍」の一字である。

謹んで御冥福を祈る。合掌。

た。

日日雑感

三期生　西尾公子

〝光陰矢の如し〟の例えの通り、老大を卒業してから早くも五年余の歳月が流れた。楽しかった二年間の老大生活の思い出は、今も尚ありありと残っている。お蔭で色々と有意義なお話を聞く事も出来たし、又よき友人も沢山出来た。文芸科に居たので短歌の面白さを教えられ、卒業後も同窓生十余人と湖友会と名付けて短歌会を作り、月一回例会を開いて伊藤先生の御指導を頂いている。どんなに勉強した所でこの年になって、秀歌の出来る筈はないけれど、下手は下手なりに苦心して一首出来た時の喜びは一入である。この楽しさは生涯忘れまいと思っている。

待ちに待った春がやって来た。貧弱な我が家の花壇にも次々と花が咲く。花作りも私の楽しみの一つで、種子を蒔いて苗を作り、移植したり肥料を施したりしている中に、ある日小さな蕾を見付けた時の嬉しさ。そして初花を見た時の感激は例え様もない。花屋に並んでいるそれに比ぶれば、何と貧弱なと人は嗤うだろうが、私にとっては何物にも替え難い宝物で、毎日眺め暮している。

昭和二十一年十月、当時は十五才を頭に四人の子供を連れて、生死の境をさ迷いつつ故郷の土を踏んだのも、今では四十年前の昔噺になる。夫の生死も行方も遂に判らず仕舞いになってしまったが、私は幸い病に倒れる事もなく喜寿の日を迎え様としている。とは言っても年と共に日々衰えるばかり、気はあせっても満足な事は何一つ出来ない。五、六年前迄はそれでも誘われれば中国、台湾、韓国、香港等、あちこち出掛けたが、今では到底そんな元気はなくなってしまった。物好きにも厳寒の二月、網走まで流氷を見物に行ったのも、なつかしい思い出である。併し友人の一人は車椅子の生活をしているし、又一人は一年以上も入院生活を続けている事を思えば、友人と集って楽しい短歌会を持ち、又日々大好きな花作りを楽しむ事の出来るのは、最高の倖せである。今日一日を少しでもよい日であったと思える様に、努力して生きて行きたいと願っている。

冠句「わかば会」　老大OB作品集

四期生　大林重信

凡平

ネオン街流しきれない過去の疵

〝孤独紛らす魅惑の灯

春が来た拍手でおくる子の巣立ち

脱である仮面は次の出番待ち

脱であるまだ捨て切れぬ亡父の下駄　　凡平

脱である働きくせも知る衣桁　　ただし

さざめ雪誘惑もなく像を彫る

いろり端また啄木の歌にふれ　　和子

耳すます神秘に触れるベートベン

〃　愛はひそかに燃えていた

壷静か　時代彩る秘宝展　　マサ

写真帳　鈍行の旅なつかしむ

春が来た単身赴任解かれそう

足かるくいつか世に出る靴ならす

肩たたき祖母は童話を長びかせ

壷静か　画布に向いて心澄む

玉子酒　みぞれ降る夜の夫婦愛

口をあけぽっりとこぼす愚痴一つ

肩たたき可愛さにじみ貯金箱　　マサ

壷静か　史実が醸す文化財

玉子酒　昔の風情見直され

人だかり覗いてみたい他人の恥部　　凡平

遠まわり的を絞った基礎作り

〃　実年にして双葉出す　　ただし

天の声　折鶴むなしく風に鳴る

〃　ひととき閉ざす裏参道

地下の音世をくつがえす策練られ

〃　アジトを覗くすきま風

人だかりメガネ外せば有名税　　（大林編）

老夫婦　孫まん中に日向ぼこ

ふたり酒石燈籠も絵になりて　　凡平

さざめ雪庭の山茶花りんと咲く

〃　消せぬ妬心がまたうずく

いろり端父の座あけて春を待つ　　和子

〃　詩情豊かな飛騨の旅

耳すます足音で知る好きな人

写真帳　幸せ一ぱい寄せた顔

ふたり酒誓い新たに交し合う

老夫婦　趣味ひと筋に共白髪
自治会、老人会等の仕事をやらしていたゞきました。

老夫婦　趣味ひと筋に共白髪
玉子酒　暮しの智恵の妻となる

さびた鍵比叡の法灯たゆるなし　ただし

〃　まだ追いつづく老刑事
口をあけポストは紅いレター待つ

天びん棒柿熟る里でひと休み　凡平

天びん棒身体一つが資本です

ー湖南支部ー

想い出

一期生　橋本郡次

私は県老人大学第一回福祉学科の卒業です。福祉学科は最初の一年だけで其の後は文学科になっているようです。当時は近江八幡市の御好意により滋賀銀行の支店まで市のマイクロバスで送迎をして戴いてほんとうに有難いことでした。昭和五十四年九月修了致しましたので約十年近く過ぎました。修了後はお蔭様で至極元気に毎日を過ごしていたゞいて居ります。其の間自治会、老人会等の仕事をやらしていたゞきました。

私は生れつき体が弱く小学校当時は皆出席の年は一度もありませんでした。二十才の時不思議に甲種合格となり京都の九聯隊に入隊致しましたが当時京都の部隊は満州に駐屯していましたので一週間程で京都を出発して北満の黒河で初年兵を過しました。黒河は前にソ連があり国防的にも重要な地点でした。十二月、一月、二月は零下四十五度の寒さで甲種合格ですが体の弱い私は非常に苦労を致しました。お蔭で一年で除隊なりましたが又昭和十二年八月の動員令により支那事変に召集され京都の部隊に入隊し昭和十四年十二月末日除隊致しました。其の後五年間程は農業団体に勤務しておりました。

昭和十九年六月又大東亜戦争に召集を受け敦賀の部隊に入隊し一週間程で今度はビルマ方面へ部隊の輸送に行きました。終戦前のビルマは筆舌につくし難い程悲惨なものでした。悪性マラリヤ、アミーバー赤痢等の為日本兵は戦争より病魔と戦っているようなものでした。前線で兵員の受渡し後、単独で昭和二十年三月内地へ帰還致しましたが、生れつき体の弱い私がよくここまでこられたものだと思います。これ偏に神仏の加護のお蔭だと思い終戦後は毎日氏神様、お寺にお参りして亡き友の冥福を祈ると共に感謝の毎日を送って居ります。

私の申し上げたきこと

三期生　伊藤博祐

などと開き直る程のこともございませんが、心の中で思っていて、他の人に聞いて頂けなければ、腹ふくるるわざ、とか申して、寝ざめがよくないかと思いまして、少し書かせてもらいますが、元来けっして頭のよい方ではなく、そして文筆の達者な方では、けっして無いのですから、お気にさわったら、どうか聞き流しにしておいて下さいませ。さて、前半は私が湖南支部長を引退させて頂いた弁をちょっぴり、後半は日頃耳にあります、すきなエッセイを、ちょっぴり書かせて頂きます。

さて、私の履歴を簡単に述べさせて頂きますれば、実は私は数え年七十八歳まで勤めて居りました。主として大阪、神戸でした。即ちサラリーマンとしては相当の高令まで働かして頂いた事になります。会社も中流の企業から大企業までの経験もあります。私が最後の会社を引退する時にも、もっと仕事をして呉れと頼まれましたが、能力に限界がある事を云って引退させて頂きました。それからひと昔十ケ年が経過して、此度も亦、滋老大の同窓会湖南支部の支部長を引退する事に相成ったわけです。つまり、私が最後の会社を引退してから、くしくもまる十年が立ったわけです。矢張り会社をやめた時と同じ事が云えるわけです。年齢的で最高限度に達した事と、能力的に限界が来たことと、此の二点を申し上げて、昨年（61年）の十一月守山市のつがやま荘に於いて開催された、湖南支部の第三回総会にて、その日の出席の全会員の同意を得て、後任の林秀一氏に支部長の役責を引き継いで頂いた次第です。満場一致の御承諾を得てホット致しました。丁度老大卒業以来（57年9月卒）五年間、老大本部、同窓会本部、八支部、特に湖南支部、その他関係各位には、特に尽大なお世話をお掛けしましたことを此の紙面をお借りして、御厚礼申し上げる次第です。ちなみに申し上げれば、皆様とご一緒に、みこしを担ぎ、感激を分かち合う年齢ではなし、能力もないということであります。

さて、後半を書きます。

私は何が好きだと申しましても此の年になってもなお時代劇が何よりも大好きで、殊に徳川吉宗の『あばれん坊将軍』などが特別好きで、『うぢ虫どもまいれ』と、此の台詞を聞くたびに身ぶるいがする。

『健康は人間が自分に贈ることの出来得る最高のプレゼントである』この言葉は多分多くの人が今迄に耳にされたことと思います。最近の天下の名言です。

『思い切って乗り出して行かない者は、けっして海を越えられない』という西洋の諺があったように記憶して居ります。ビクビク人間から脱皮出来ない人は、けっして成功は望み得ない。

一度は天下に名を挙げたいとは兼ねてから思っていますが、

わけです。年齢的で最高限度に達した事と、能力的に限界が来

一度は天下に名を挙げたいとは兼ねてから思っていますが

よる年なみで仲々頭やからだがいうことを聞いて呉れません。だいそれた事を考えずに静かに余生を送るのがよいのかとも思い、最近では思い直して一寸志向を変更して居ります。

人間は引け際をよくすることが尤も大切な事だと思っています。女流作家の宇野千代サン丁度九〇歳のことば。『ストレスをためぬ努力が一番大切です』と。私もこれからの老いの余生を『ストレス』をたまらぬように、ためぬように、陽気に愉快に健康に暮らしたい、と心掛けて居ります。

〃よいしょ〃〃何くそ〃は、しょっちゅう私が心の中で抱いている言葉ですが、人前では決して申し上げたことはありません。

サイレントマジョリティ（声なき多数派）悠々の毎日と云えば、格好はよろしいが仲々云うは易く行うは難しの世の中ですね。

私は常々思っています。行きつまった時には、万難を挑して、よき方に流れをかえることに必死の努力することが一番大切なことと思っています。今度の統一地方選挙でも、そのことが色々考えさせられます。

今春は特にきびしい花冷えの年でありました。皆様にはお風邪など召されないように、くれぐれもご大切に。

（62－4－18記す）

老大三期生陶芸学科

三期生　嶋　鉄　男

無芸、無趣味に明け暮れして、六〇の坂を越したとき、老人大学校の存在を知り、よし！この機会を逃してはなるまい。どの部門でもよい、ひたすらに打込める学習を求めてみようとの意欲が沸きあがってきたのである。

入学通知を受けたとき、私の専習科目は、陶芸学科であるとのことを知り一種のとまどいにも似たおどろきと、不安で一ぱいだった。でも未知の世界に飛び込むのも、生き甲斐を求めてみようとする今の心境にぴったりだと悟ったときには、勇気が沸きあがってきた。

入校後は、陶芸学習は勿論、一般教育の学習にと、精一ぱいの努力を傾け続けていくことの喜びを味わうことのできる、日課の連続でもあった。

若くして亡くなられた、奥田陶器先生をはじめ、伝統工芸士であられ、今も斯界の権威者であられる大西忠雄先生から作陶の基本を習い、ようやくにして、そのものの形だけ位いは、なんとか成型できるようになった頃には、既に卒業を迎えざるを得なかった。

このままで終ってはいけない挫折してはいけないとの気持ちは、若い者をも凌ぐかのように燃えあがってきたのを、昨日の

ように覚えている。

灯油窯を設備し、釉薬の一揃いを準備してからは、自分なりに粘土の研究をするやら、各地近郊の窯場を見学する一方で、作陶を続けていく毎日であった。

少々飽きっぽい性格を持っている家人からは、「よくも毎日こんなに続けられるなあ……」と笑いがでるほどに熱中?するようになってきたのである。

下手な鉄砲、数打ちゃ的るでもないが、焼きものが狭い家の中にあふれるばかり。こんなとき友人のすすめもあって、各地のデパートで行なわれる手作り作品文化祭に、おこがましくも出展するようになり、今では、大阪三越、京都高島屋、西武高槻、大津のデパートなどに連続出品して頑張っている。この四月三十日からは、西武大津で、私たち同期の六人展を開き、手作りの真価を問う計画を進めている。少々天狗話しになったが、お許しを願いたい。

老大生は最高

四期生　後藤　猪三郎

私は四期生の文芸学科を卒業しました。過去二年の間、多趣、多様に学びました。老大生は最高の学校であると痛感致しました。

学生諸氏は、健康であり、家庭に恵まれ、人生経験豊かな方々の集りでありました。

学校では入試や、テストもありません、い眼りの指摘もありません、肩の凝る講義もなく、自由に知識を得、話題も豊富に、老化防止の勉強をさせていただきました。卒業後も、クラス会や、同窓生の集りを続けている、意義ある最高の学校であったと思う。

話題は変りますが、今学校教育では色々な問題が起っています。例えば精神面で、「のろま」とか、「悪」とかいう、いぢめ風俗化や暴力教室もある、又体罰とは、愛情からとか、愛のムチとか言われていますが、これも限度がある。罰を与える者、受ける者、その取り組は、それぞれ話し合いの場や、ほどよい調和が大切だと言われている。さまざまな教育の昨今、理解は至難、だが、こどもの人権を真剣に考える時代となったが、さてこれから先は如何。

もう一つ過去を振り返ってみると学校教育とほど遠い、軍隊教育があった、今でも私の脳中にある、軍人精神の訓示が数多くあった。例を挙げてみると、上官の命令は事の如何にかかわらず絶対服従すべし、の教えから、厳しい軍隊生活、又体罰は体得と悟れの一言。戦地では、死は鴻毛より軽しと心得よ、の訓令。惨酷な体罰を受け、外地での戦場特有の悲惨など、筆舌に

多様に学びました。老大生は最高の学校であると痛感致しました。尽くし難い生体験の数々、九死に一生を得た、今の身を有難く感じています。

数々の学校や、教育の比較をして老大ほど幸な人々の集りであったことを感謝しています。

人生は六十歳から、お迎えが来ても、留守だとか、まだ早いとか、せかずにゆっくり良い時期を見てこちらからゆくといへの合言葉を念頭に置いて、これからの老いの人生を無駄なく生き、この老大の御縁に出合った、幸せをいつまでも続けたいと思っている一人であります。

三円の厳しさ

五期生　川嶋　勇

「何だッ。真ン中にデンと坐って…、自分だけ坐っていりや、それでいいんだろう、クソ面白くないッ」。四月七日、坂本の西教寺へお詣りしての帰途、京阪電車の中のことである。三井寺から三十歳位の男が乗り込んで来たが、片手に破れた紙包みを持ち、大分酒が入っているらしく顔面蒼白で眼が据っている。車両の中程でふらふら吊革に下っていたが、突然この怒声である。

車内は千部会帰りのお年寄りが、両側に坐っており、びっくりしていたが、相手が悪いと皆んな顔をそむけている。酔っぱらいは、尚ぶつぶつ呟いていたが、電車が浜大津へ着くと、ふらふらと降りてしまった。普段の老人に対しての不満が、酔って本音が出たのか、ふらふらしている自分に席を譲ろうともしない老人達の思いやりのなさに腹を立てたのか、昼間から酔って当り散らさねばならないような嫌なことがあったのか、何れにしても場違いな怒声であった。

その晩、若い友人に久々に逢ったが、勤め先の会社では毎日残業で大変だという。そんなに忙しければ結構じゃないですかというと、それがそうではなく、円高不況で一ドル一五三円を如何に乗り切るかに必死で、機構改革や人員整理をして、やっとこれで対応出来ると自信が持てた矢先、又々一五〇円に上り、たった三円のことで会社はきりきり舞いをしているという。私は七十二のこの歳まで、三円の上り下りがそんなに厳しいものとは、かつて感じたこともなかったし、これからもピンとこないと思う。然し、益々深刻になる貿易磨擦、かつてない円高不況、人員整理など激動する厳しい経済社会の中で、必死になって斗っている人々。その人々を受け取めている家庭。そうした地域で、家庭で老人として如何にあるべきやは、昼間の酔漢の怒声を思い返すまでもなく自ら明白なことである。

眼に見えないものの、尊さを知っている私達老人は今こそ、心と体のバランスある健康づくりに努め、地域社会への友愛、

令。惨酷な体罰を受け、外地での戦場特有の悲惨など、筆舌に

奉仕活動を卒先して進め、世界一長寿国の老人としての位置づけを確立する時ではないのだろうか。

高齢者の健康対策について

五期生　大　西　憲　司

高齢者が健康な生き方を実現していくためには、日頃から健康対策として、そのあり方、心がけ等について、考えておく必要があろうかと思います。その第一には、心と体の相互に関係しあった働きによって、健康が保たれることを、知っておくべきであります。体が不健康になると気分がすぐれず、円熟するはずの精神もそれが妨げられ、稔らなくなってしまいます。その逆に、心にいろいろな問題を生ずると身体の病気が現れてくるものです。特に、高齢者の病気の中にはこれが多くあります。頭が重いとか、胸がどきどきするとか、便秘や下痢が続くとか、足がだるいとかいった症状を訴える人がお医者さんに診てもらったり、薬を飲んだりしても、よくならない、そうした人に対して何度か話してみると、人間関係の問題や仕事の心配ごと不安など、悩みごとを持っていることが多い、その問題や不安、悩みなどをいつしょに考えてやり、解消することができると、治らなかった身体の症状がなくなっていくことが多いのです。

第二に、高齢者には病気とは別に、考える必要のある老化現象の問題があります。このことは、日常生活のしかたについて、老化による体の変化に応じて変えられていかなければならないということです。老化の大切な特徴として「使わないものは衰える」という法則があります。例えば、カゼをひいて寝込んでいる間に、足、腰が弱って歩きにくくなったとか、長期間入院していて病気は治ったが、生活の自立性を失って退院できなくなったとか、頭も使わないとぼけてしまうというようなことがあります。こうしたことを考えるとき、高齢者の生活は、心身を無理に使いすぎないよう、また不自然に休めないよう考えるべきで、その努力が必要であります。そのためには、もっている力をできる限り活用して、例えば、目がうとくなる、耳が遠くなる、ものが言いにくくなる、手足の動きがにぶる、足もとがふらつく、頭がぼんやりするなどと、いった老化現象に対応できる健康対策を考え、生命ある限り、日常生活能力を高く保って、人間らしく生きられる努力が、必要であります。

〃思いのまま〃

五期生　村　川　増治郎

会報の原稿を書く様にと、突然用紙が送られて来て、戸惑い

ました。でも私なりに日頃思っている事を紙面の許すだけ書きます。

吾々同窓会の沿革は、会報（第四号一〇頁）昭和五十五年九月、第一期生卒業式終了後よりとなっています。第七期生（第五号名簿による）を迎えた段階で、会報について兎や角不満をいいだす様になり、先般四月六日同窓会の役員会席上、会報を会報の名に相応しい、充実したものにする。との事で今回の処置となったらしい。

充実とは何か、どうすれば良いのか、会報は会に関することを、報告する為に発行さるべきであったのに、第一初版（第四号）から同窓生の名簿に過ぎない（第五号）又、然りである。では、会報が出来た今までの担当は一体どなたがどの考えで作られたのか、会報の原稿、校正、印刷、製本、価格等、それから会則あっての会報に、どの会報にも会則が載っていない。同窓会の役員氏名（支部の役員氏名）等、又、総会の事項等知らされずに来ているのでこれだけでも入れると充実する。ならば、価格も掛る事だろう。会費の値上げともなれば問題が起きる。例えば先に終身会費一万円を納めた人があるとすれば、これをどうするか等考えるとそんなに期待も無理と言う結果となる。

それよりも会則七条の事業部、この担当は誰がそしてどのようにする。具体例を示して解る説明が欲しい。老人大学校に在校中は無理をしてでも頑張って出席をして夫々学科の勉強をして、さて卒業後どれだけの人が地方の活動をしているか、そう多くないと推測される。おそらく老後の余生をのんびりと愉しんで居られる御人の多い事。又当然のことである。老い呆けてはならぬ。但し今更若い者に伍してどうこう出来るものでもない。そこで会員相互の親睦を何とか、維持出来る会とするのが精一杯の処ではないか、第七条の事業部の余りにも三部のあるのが六かしい。と言いたい。一般公開講座の会場周辺でも来ていない。研修の場をもっと真剣に皆で考える様にもって行ける会とするこそ急務で、余り欲張った計画よりも親しみの持てる同窓会とし、その会報もまた皆の待ちこがるるものとなればよい。

われわれの聊かの誇り

三期生　伊藤　博祐

一寸おこがましいのですが、私達の僅かな誇りを、ここに披露させて頂きたいと存じます。私達の最高に敬愛する短歌の先生であり、指導者であらせられる伊藤雪雄先生に師事して滋老大第三期文芸科を五十七年九月卒業致しました。それと同時に、われわれの『湖友短歌会』は発足し、今年（62年4月）で丁度四年八ケ月を経過しました。その間毎月大津の老人センターで、

或は桜、紅葉などの好時期には先生のお伴をして歌枕の各地に吟行を続けました。たとえ参加会員が半減した月がありましても一ケ月も休まず、毎月先生のご懇篤なご指導ご添削を受けました。老大在学二ケ年間にくらべて実作に挑む吾々を声なき鞭で励まされお導き下さいました。今後の永続をわれわれ結社は固く誓い合って居ります。未だ未熟のためその成果たるや見るべきものはないのですが、力を尽した努力の跡を見て頂ければ誠に幸甚の至りに存じます。

（左記短歌は会員の詠草分二首ずつの披露です）（順序不同）

一望の野山はなべて黄昏れに墨絵の如く夕靄のたつ　野洲町　青木治之烝

くろぐろと鋤きかえされし整備田春なお寒き風に晒さる　秦荘町　北川弥一郎

左義長祭山車の火赫あか燃えもえて社を照らしていよ最高潮

（近江八幡左義長祭）

口紅に髪化粧して赤襦袢山車を練る若人マツセマツセと

（左義長昼間の練行）

梅咲けど鶯鳴かず早春のうす陽さす中風花の舞う　大津市　増田　三郎

不随の身を昼湯に浸り安らけく一握り程の倖に酔う　近江八幡市　中嶋庄右衛門

大涌谷噴煙もうもうと立ち込めて地下幾丈に核層あらん

比良八荒湖山あれて春休みの一家ハイキング夢に終りぬ　草津市　加藤　貞子

この夕べ借りきし歌集三冊を貧りよみぬ　れし心に

心病む青年おもひて帰る道まむかふ比良の雪雲おもし　甲南町　松本　弥一

腰曲げずに歩けと云う妻の言葉と思い出して吾の胸張る

雪の日に碁を打つ老の黙々と静かに石の音のみ聞かす　大津市　桑野　大

如月の満月山にかかりいて琵琶湖の浜辺は入りつ陽に映ゆ

暮れなずむ如月の月まろやかに光り穏しも近江盆地に　草津市　中村千代子

仏の座まこと小さき花ながら双葉の中につつましく咲く

蓮海寺のみ仏やさし水晶のおん目きらりとときに光れる　大津市　森野　茂吉

遠き日のにぎやかなりし子だくさんも今はしずかにたのしみとして

春雨にふかき思いを大崎の花にかこまれ杯くみ交す　竜王町　大橋昇治郎

暁の雪降る中をジョギングす眼鏡にかかる雪ぬぐいつつ

母の顔知らず育ちし稚な子の一年生となる日近づく　大津市　伊達　初子

針はこぶ部屋のなかよりガラス越しに春はまだかと山に向きいる

冬去りし幻住庵の山の木木芽ぶきたるらし色づきて見ゆ

大津市　西尾　公子

会者定離ことわりとは知れ今日この日の神のたわむれ花ちり急ぐ

紅葉映ゆる合掌造りの家々のはるかに南アルプスの雪

草津市　伊藤　博祐

くれなずむ比良山なみに雪もよいはつか雲間に夕陽残れり

しづえより乙女椿の初花が春にさきがけてさわやかに咲く

（以上十三名二十六首）

老後を豊かに生きるため

五期生　石　田　義　雄

人生八十年時代を如何に生きるべきか？　高令化社会が、危急に直面していると言われる今日、老後に課せられたる切実なる問題として、恐縮ながら卒直に感想を批歴したいものと思う次第である。

先づ生甲斐とは何か？生きている事に意義があり、日常生活に喜びを見出す心の張り合いと云われ、その日々を最善に生き抜くため充実した毎日こそが生甲斐である。

私は現在、警友会員老人会員、退公連会員守山教育玉津支部会員等々末席を汚しているが、此の度守山市シルバー人材センターの会員に入会し、労働能力を活かした活力ある地域社会作りに寄与するため、自らの生甲斐の充実と、社会参加に目指したのである。

ユニークな発想として敬意を表したいもので、今後は老人大学校同窓会員も会員組織に投入すべきであると推進する次第。

「過きし日の想いほのぼの甦る老後の余生せめて甘かれ」

短歌一首を捧げて、私の心境を吐露する。「雀百迄踊り忘れん」諺の如く青春の若き日の初恋から、五十年経過する今日、老いらくの恋に至百迄、幾多の過去の経験はあったが、矢張り初恋の味は忘れられず、彼女を異性の友として現在は老いらくの恋に進展し、交際中で、私なりに生甲斐を日々感じている。第三者から見れば、馬鹿な良い年をしてとか、変り者と思われるが、それは間違いと云はざるを得ないのである。

若返りとなる生きるため、参考となれば何よりと敢えて発表し、笑い草となるであろう。私は座右の銘として、左記の言葉を提言する。

一、仕事に対する意識革命は、大きな目標に挑戦しよう。

二、問題提起だけに終らせない社会的視野で自己の啓発には、得意の分野を作ろう。

最後に近況の短歌を、御健闘を切に祈る

「再びを職につきたる生甲斐は日々の勤めに安らぎ覚ゆ」

「老いらくの相聞の歌ほのぼのと心に燃ゆる春の夜は更け」
昭和六十二年四月十六日投稿

ー甲賀支部ー

心身の健康

一期生　丸市喜好

元気です。支部を結成し二か年、役員（会員）の援助もありましたが、残念ながら力不足で何もできなかった。会員の組織づくりにそれぞれの地域で活動している方に申訳けなく、喜んで参加できることが乏しいことでなかったかとの思いです。

「人の一生は重荷を負って遠い道をゆくが如し急ぐべからず、不自由を常とおもえば不足なし」という言葉をきいたことがあります。幸を求めて一生懸命生きている時こそが、幸せの時とわが道を歩みつづけたのです。国際化し、〝経済大国〟になり、そして一方で急速に高齢化社会を迎えつつあるのが、今日の日本です。

高齢者の生きがいと社会参加を目指す地域老人クラブの推薦で一人でも多く高齢者の生涯教育の場である滋賀県老人大学校に入学を勧奨して郡内の会員増加に寄与すれば甲賀支部の発展につながり、地域の実情に合せた創意と高齢者自身の努力があればこそ発展の道がひらけると思うのです。

人間は年をとると、たとえば環境の変化について行きにくくなるし、いろいろな刺激に対する抵抗力など回復力が落ちてきますから心身の老化の防止につとめることが必要です。

どんなに年をとっても自分で働く、自分で社会的な役割りを担っている、という誇りがなければ本当の意味で幸福ではありませんし、本当の意味で健康とはいえないのです。

自分の健康状態を知って、それにあった生活をすればいいのであって無理はだめです。

それで三月に心身の健康づくりに四国八十八か所の霊場めぐりの旅に参加、三月は一番から三十二番の札所と番外の寺とで三十三か寺を廻るのです。

朝六時に高松港に着き、菅笠、金剛杖、笈摺という遍路装で下船して、せとうちバスにて一番霊山寺へ約一時間二十分、車中同行の先達さんの導師にて一日の安全を祈念して真言勤行、般若心経を読経することで同行の皆さまも気持ちがおちついたようです。

第一番　竺和山　霊山寺は天平のころ行基菩薩が開基し、つづいて大師が二十一日間寺にこもり名称をつけ第一番に決めたということです。天正のころ兵火で焼かれ、また明治中期の出火で焼失、その後再建したという、本堂もどっしりして、仁王

門もいかめしい、多宝塔もさして大きくないが立派です。

第二番　日照山　極楽寺はすぐ近くだが、坦々とした街道には、菜の花が咲き背中がほかほかと暖かかった、四国遍路は人の世の重い荷物を背負った人が、寺々を訪ねあるいているように思えた。大師堂から納経所への途中に弘法大師お植えと伝えられる大きな長命杉があった。

第三番　亀光山　金泉寺は極楽寺からわずか四キロたらず、この寺の巡礼歌に〝極楽のたからの池を思え　ただ黄金の泉澄みたたえたる〟という、これが金泉寺の名のもとと、この泉に自分の顔が水面に映ればその人は長生き間違いなしと伝えられている。たしかに映りました。

第五番　無尽山　地蔵寺は土地では俗に羅漢さんと呼ばれて親しまれ地蔵寺では通用しないそうです。五百羅漢が最も名高く等身大の立像で、いずれも眉毛が黒く大きいのが特徴といえるようです。

第七番　光明山　十楽寺は大師この地に滞在中、阿弥陀如来を感得、早速生木の楠で彫られた。これが今の本尊です。

第八番　普明山　熊谷寺は坂道で寺まで四キロほど歩くと本堂にたどりつく、大師はここの谷の中で観世音菩薩の金像を感得し、日夜精進され仏舎利百二十粒とともに本尊に金像の等身大のものをおさめたと伝えられている。

第九番　正覚山　法輪寺の本尊は大師が刻まれた寝釈迦像で、いまに霊験もあらたかであるということです。

第十番　得度山　切幡寺は登り坂三十分ほど歩き急な石段を上り本堂につくのです。

第十一番　金剛山　藤井寺は四国第一の藤の名勝で本尊は薬師如来です。

第六番　温泉山　安楽寺は昔、この地方に温泉が湧いているのをみた弘法大師は堂宇を建立、温泉山安楽寺と名づけ、薬師如来を本尊としたと伝えられ、本堂もさすがに立派な建物で宿坊は鉄筋建てホテルなみ、宿泊施設の整った四国霊場では第一です。本堂、大師堂に線香、ローソクをあげ読経をすませ金剛杖の石づきを洗って宿坊に入って夕食後本堂にて納経があるのです。朝は六時三十分出発、せとうちバス乗り二日目の安全のため真言勤行、般若心経を読経祈念をして次の札所へ。

第十六番　光耀山　観音寺は堂々とした二層の山門、本堂、大師堂とこぢんまりとした寺です。

第十七番　瑠璃山　井戸寺は大師ここに留まり、水が不自由というので錫杖で井戸を掘ったら清い水が湧き出たという。

第十五番　法養山　国分寺は山門を入ると正面に二層建の本堂がある。天平の昔、広大な七堂伽藍を誇ったとされるこの地で和気清麻呂や菅原道真の祖父が国司としてこゝに滞在していたという由緒ある寺です。

第十四番　盛寿山　常楽寺は天正年間に兵火にあらゆる建物

は焼け、その後孔山和尚による曹洞宗と政宗、文政年間にようやく再興されたということです。

第十二番　摩盧山　焼山寺は遍路泣かせの難所といわれる参道でバスからタクシーに乗換えて坂道を歩いて登る寺である。

第十三番　大栗山　大日寺は阿波一国の総鎮守の一宮神社の別当寺であったということです。

第二十番　霊鷲山　鶴林寺　二羽の鶴にまもられた寺として、とにかく高い山の霊場である。焼山寺以上の難路だが今は幸いバスで近くまで行けるのです。

恒武天皇のころ延暦年間に大師が開創した名刹である。本尊は波地地蔵、矢負地蔵といわれ、霊験あらたかな寺です。

第十九番　橋池山　立江寺には、肉づきの鉦の話がのこっている。また大師自らが刻んだという本尊は、当時の皇室や藩主の保護で多くの寺宝や堂塔も現在も安泰です。本堂、大師堂で線香ローソクをあげ皆揃って読経して金剛杖の石づきを洗い宿坊にあがり夕食後は本堂にて納経して一泊する。

次は朝六時三十分出発、バスに乗る。

第十八番　母養山　恩山寺は小高い山の中腹の樹林の中にあり、昔は女人禁制の寺とされ、大師も特別祈禱して生母を背負って登山したという話です。

第二十一番　金心山　太龍寺はタクシーで小道を登りおりてから歩いて坂道を登ること四十分、途中西南に望む鶴林寺の多宝塔の屋根、なお坂道がつづいている。大師はこの太龍岳に登って修業され、その苦労がのち高野山で実を結んだのであろうと伝えられている。老杉の林立する中に護摩堂、本坊、大師堂、多宝塔、弁天堂、本堂、求聞持堂など諸堂が建ち並び、本尊は虚空蔵菩薩です。

第二十二番　白水山　平等寺は人間の平等を願い祈った大師は、寺を平等寺と名づけたと伝えられている。

第二十三番　医王山　薬王寺は大師四十二歳（弘仁六年）の開山ということです。

第二十四番　室戸山　最御崎寺は大平洋の断崖の上にそびえ、若い大師もこの海岸で難行し、御蔵洞などの遺跡が残っているのです。

第二十五番　宝珠山　津照寺は急な石段が約百段程を登りつめた所に立派な本堂があり、大師堂は下の宿坊の側に建っている。本堂と大師堂で線香とローソクをあげて読経のあと、金剛杖の石づきをきれいに洗って宿坊に入り夕食後本堂にて納経をしたのです。

宿坊を朝六時三十分バスにて出発。日々のくりかえし車内で先達さんの導師にて一日安全を祈念して真言勤行、般若心経を読経するのです。

第二十七番　龍頭山　金剛頂寺は東の最御崎寺に対して、ここが西寺といわれるのです。

第二十七番　竹林寺　神峰寺は急坂をタクシーで登りおりてからも心臓破りの急坂の古い石段登りやっとたどりつくと、左

米寿になる頃までに、滋賀県は高齢化に伴う様ざまの問題を克服して、明るい長寿社会づくりをめざして、誰もが生き生きと

第二十七番　竹林寺　神峰寺は急坂をタクシーで登りおりてからも心臓破りの急坂の古い石段登りやっとたどりつくと、左側に大師堂と本堂、老木の茂る境内です。

第二十八番　法界山　大日寺は本尊の大日如来は行基の刻んだ国の重要文化財です。

第二十九番　摩尼山　国分寺は行基が天平年間に本尊千手観音を刻んで開基、大師は巡錫し、八祖相伝法を勧修以来、根本道場といわれているのです。

第三十番　百々山　善楽寺は恒武天皇のころ大師が巡錫し、善楽寺を三十番霊場と定めたということです。

第三十一番　五台山　竹林寺　この寺は五人の文殊菩薩が本尊として祀られてある。

ここを有名にしたのは土佐のヨサコイ節だそうで、その恋愛の主純信と、近くの娘うまとのロマンスが有名です。

第三十二番　八葉山　禅師峰寺は山麓から急坂がつづく、境内は奇径な岩石が多く、樹木におおわれ昼なお暗い仁王門には二体の金剛力士の像が立っている。大師は自作の十一面観音を海上安全の船魂観音が本尊です。

予定の霊場めぐりを無事おえて高知桂浜のホテル桂松閣にて精進落しをして、明日バスにて高松城、大杉、大歩、琴平を経て高松港にて下車、関西汽船にて家路についたのです。

家に帰って滋賀県老人大学校模議会、会議録を読んで自分が米寿になる頃までに、滋賀県は高齢化に伴う様ざまの問題を克服して、明るい長寿社会づくりをめざして、誰もが生き生きと長寿を喜んで暮らせる理想的な社会を湖国に実現しようという意味の構想で十か年計画、設計を策定しているのです。

この構想が完成すれば、湖国の高齢者は楽園に学び運動をして平和、健康、長寿の社会に米寿を喜んで生きられるということです。

浄遊一瞬の夢

三期生　谷口三郎

定期放送を中断してのニュース速報を見て、「これはえらいことになる」と直感した。

その夜半、二男、正勝の勤務先の会社から、この飛行機（日航、一二三便）に正勝が搭乗したらしい――との第一報をうけた。

やがてニュースが搭乗者の氏名を発表しはじめた。

――タニグチマサカズ――とテレビにうつる乗客名簿をみて、目の前がまっくらに、奇蹟を祈りつつ、はかない希望に夜があけた。

正勝（40）は大阪の箕面市に住み、チッソポリプロ繊維部に

勤務、当日は夏休みのこととて、ボーイスカウトの副長をしていた関係上、兵庫県神鍋山で地域の子供たちのキャンプ指導中、上司の病死を聞き、とりあえず自分の子ども（中一と小三）を仲間に託して十一日下山、翌十二日の葬儀に出張を兼ねて同僚六名とともに日帰の予定で東京へ飛んで帰途、この事故に遭難した次第である。

十七日、返送の遺品を整理中、墜落直前に書いた家族にあてた遺書を発見した。機内に備えつけのゴミ入れの紙袋に鉛筆の走り書きで――

〃まち子　大阪みのお　子供よろしく　谷口正勝　6・30〃

袋の左半分は血がベットリついていたが文字ははっきりと読みとれた。思うに、事故発生と同時に機内の乗客にも異常がわかって覚悟をきめたものか、とっさに目の前の袋を取って書いたものらしい。

そして、遺書が確実に遺族に届くよう免許書にはさみこんであった。

機体が安定を失ない、はげしいダッチロールをくりかえしつつ、山腹に激突するまでの二、三十分間、生と死の間を行きつ戻りつ、遂に四十年の生涯を一瞬に失ったわが子、正勝が数分先きに訪れるであろう確実な死を予測して、自分の子どもたちの将来を妻に托したその心情を思いやるとき、改めてこの突然の不幸に身をよじった。

――正勝の腕時計は七時を指して止っていた。　合掌

生き甲斐の模索

四期生　林　長夫

桜の花が咲き初めると急に畑の雑草が大きくなり活発に成長するようやくにして夏野菜の種蒔が終ると、こんどは少しばかりの稲作準備となる、これが近年の田舎における老人の日課である。若い者は会社勤め、出勤の後は孫の面倒もみなければならない。これが当りまえとなっている農村の共通的なことではないかと思われる。つねに野良仕事等は根気と暑さと雨風にも堪えなければならい労働の役割分担となっている。

老人仲間の話のなかでは、昔と大きく変ったね！労働は若い者が老人は家の留守番と食事準備となっていたが大変な世の中になってきた、いくつまで野良労働をせなければならないのだろうなあ……若い者はたまたま日曜日ともなると野良仕事には一切目もふれず仕事の係が違うかのように子供とともに車で遊びに出かける、このような姿が経済大国である先進文化国の農村風景であろうか、老人は嘆く、若い者は日曜日くらいはのんびりとすきなことして過ごさんと、と云っている。この姿が戦前戦中戦後に着るものも喰うものも堪えに堪えて困苦を重ね現代

の基盤をつくり、やれやれ停年となり、いままでの苦労が報くわれるかと思えば家庭の世代が老人には不都合な大きく様変りしている。それには原因があるその原因を究明解決せずに高令者対策とか老人は如何にあるべきかとか現状のみが大きな課題となっている。このようななかでいまの老人は最も幸せな時代であると云われている、いままでと違い年金等により経済的には小遣いにも困らず旅行にはよくでかけることができるし……このことだけをみれば幸せかもわからないがこれは日常生活の現役を終えた者の一駒であると思われる。

ところが次第に老いるなかで人生の生き甲斐を求めるにはどうすればよいのか、またなにを求めたらよいのか。求められぬまに野良仕事に追われながらこの世を去らなければならないかと思えば一抹の淋しさを感ずるがくよくよせずにいつまでも若く気力で頑張ろう。

公開講座に参加して

四期生　島　田　寅治郎

公開講座で、徳川三〇〇年の鎖国政策における効罪？について、此の間は外国に戦を挑んだ事もなく侵された事実もない。これは世界から見れば、日本は極めて平和な時代で「ギネスブック」に記され、それを破った国は今だにないそうである。私は武家政治における庶民の苦痛や貧の連続であって、専政的な隠やかならん史述を理解した記憶しか残っていない。こんな歳になって恥ずかしい話だが、事実は現象而己ではいけない。其の裏を多角的に理解してはじめて知った事になることに気付いた。見方によれば実に日本国民は偉大なる民族であったと思う。それから歴史は変遷して百年を越した。世界に飛躍しながら、大荒に荒れた時代を生きぬいて、良かれ悪かれ経済大国に成長した。豊かさへの道は、大きな犠牲と代償と叡智と勤勉等に支えられて、輝かしい高度社会へと発展した。生活の欧風化や食の変遷は、長寿国へと進み、老人問題を避けて通る事は出来なくなった。「世界の潮流」で、色々と学問的にきいたが、さて、豊かさえの一途は、経済摩擦へと発展し、輸出入や円高ドル安傾向は、景気や企業不安に起因する難問が生じ、生活を脅やかし、歪が見えて来た。そして現代を生きる不安観が彼方此方に見られ、自分を見失う結果となる。国としても、国営企業の民営化、特に国鉄は分割形態をとり、不振箇所の地方移管等は、難題の代名詞である。親方日の丸意識の国鉄改革や税制問題も、老人には無関係だと一笑に付する事は出来ないだろう。家族制度に於ける今昔、親子関係の考え方、医療制度（特に老人医療の問題）福祉政策等々直接間接に結び付き、その傾向は、老人に不安を募る事が多い様である。「世に用のないものばかり日

向ぼこ」愛知県南氏の句を思い出す。日向ぼこをするしか用の無い暮しもZ（しゃれている意）なのかも知れないが、その句の、裏側は実に寂しい終焉（臨終を意味するがここでは老後の生活）でもあろう。定職を離れた老人も免に角精一ぱい生きている、そしてそれなりの人生を全うしようと努力している。これらに報える様な、行政と施策を願うものである。又老人も自から、生きている事が真実に楽しくなる様にすべきである。

今日の感謝生活

五期生　宿谷光次

滋賀県老人大学校五期生として二ケ年間老人の高齢化社会に向う現在、豊かな円満な老人にあるべき道についてあたゝかき同窓生、皆みな様のふれ合いのもと楽しく勉学させて貰い身心の健康であることが人生最大の宝であること、日にち老後の行動が、滋賀県老人大学校設置施策の目的精神に報ゆる可く心掛け地域老人クラブ活動の育成に、婦人会、子供会ともふれ合いの場を持って多少なりとも家庭生活の和楽円満、青少年の健全育成、地域社会の平和福祉の増進になる様にと念願して報恩の道にと精進しております。

滋賀県老人大学校同窓会に、甲賀支部にもふれ合いと親睦を深め発展を祈って二ケ年の役員任期も済ませて貰いました事を有難く感謝しております。

私事乍ら八十歳を迎えましたが二人揃って子供、孫共も同居して至極健康に恵まれ報恩と感謝と悦びの日々であります事も、これ神仏様の御加護と世の人々様のお蔭と、滋賀県老人大学校で勉学させて貰った賜と只々感謝あるばかりです。

今の健康はいつまで寿命を下さるか、気にする事なく日々存分精進して人生八十年代に老後の稔りある様まっとうしたく念願するものです。

有難う御座います。

土山町文化財の照会

五期生　金山良吉

松尾坂

三年坂勅使所、京の都にきこえた地名が大変多く使われている。済王群に随行された大宮人が京の都をしのんで名付けられたのであろうか、東行する人々には此の松尾の坂は別れの坂であったのであろうか、済王群の女御の歌がこの坂から鈴鹿をながめてうたわれている。

鈴鹿山まふるのなかみち

きみよりも　ききならす
　こそおくれかたけれ

鈴鹿馬子唄

坂はてるてる　鈴鹿はくもる
　あいの土山雨が降る

徴子女御

この坂は松尾である、江戸時代は賑わいをみたが、今はひっそりとした伊勢まいりの街道で道しるべ歌碑等が残っている。

土山本陣跡

土山宿は東海道五十三次の宿場で、起点の江戸日本橋から百六里三十二丁、終点の京都三条大橋まで十五里十七丁余りの位置にある。

本陣は寛永十一年、三代将軍徳川家光が上洛の際設けられた。土山町史によると本陣職の事によってわかる、甲賀武士、土山鹿之助の末裔土山善左衛門を初代本陣職として勤めた。本陣は当時諸大名、旗本、公家、勅旨等の御宿として宿泊した。本陣宿帳に多くの諸大名等が書きしるされている。

明治元年九月、明治天皇が行幸の際土山本陣で誕生日を迎えられ第一回、天長節の儀式を行なわれ土山の住民に対して御酒錫が下賜されたこと今も尚土山の誇りとして語りつがれている。本陣は明治三年（八七〇年）宿駅制度の廃止に伴いなくなったが、永遠につゞくであろう、鈴鹿馬子唄の土山宿場がある。

―近江八幡支部―

想った儘

二期生　中嶋　實

光陰矢の如し　昭和五十六年九月十九日、近江八幡市農業会館にて私たち第二期生の卒業式が行われ、同級生であった、中川長三君が卒業生代表として謝辞を述べられ、私は湖北から出席するのに「死ものぐるい」で再三出席することがあった。この一言は、私の生涯忘れることの出来ない尊い言葉であり感を深くしました。

私は老大理事会に彼の熱意と努力の程を披露し、中川長三君を会長にと云い推薦した一人である。老大の支部組織が一昨年近江八幡の滋賀厚生年金センターにて可決され実践したのもつい先程である。又老大独立校舎が必要であると第一声をはなたのは昨年他界された、八日市市の加藤悟兄でありますが、その独立校舎の設置も中川会長始め畑中保治郎、中嶋庄右衛門理事等各役員のお蔭であることを忘れてはならないと思います。

尚、支部組織の実現、独立校舎設置の問題は、この度退職された国松先生始め、事務局の先生の絶大なるお骨折であります。紙上誠に失礼乍ら厚く御礼申します。

二、近江八幡支部の活動と組織

近江八幡支部の活動については会長中嶋庄右衛門氏が熱心に御尽力下され、衷心感謝して居る次第であります。

会員数は現在八十人程でありますが、在校生二十八人を加えると壱百八人となり、大津市についで第二位であることは確かであります。

独立校舎の署名は約三分の一が近江八幡市であったのは、御存じであると思います。

老大卒業生の、地域社会に於ける活動は、老人クラブとの提携が大切であろうと思います。

三、老大と老人クラブの関係

ご存じの通り、私は一昨年妻と死別し、一人暮らしの生活で本年八十一才の老人であるが、学区の会長を四年つとめ、本年度は改選してもらいたいとお願いして居る次第です。

老人クラブでは先ず健康と生甲斐を目標にして活動を進めて居ります。

四月と五月は、市の福祉バスで二班に分けて、彦根博の参観に行き会員の教養を高め、ゲートボールに偏しないように心がけています。

誇りある老い

二期生　宇野　よしゑ

「若さとは人生の或る時期のことではなく、心のあり方をいうのだ。」　だから心の持ち方しだいで人はいつ迄も若さを手に入れる事が出来る。

沈む日を呼び戻せないと同じに年齢を取り戻す事は出来ないが、太陽は中天高くある時よりも沈む時こそ茜に染めひときわ輝きを増す。私達も自分の老後を輝く日々にする事が出来る筈だ。

年をとると云う事は個人として成長し社会に関りを持ち自己を完成してゆく全生涯を通じての成長なのである。

老年といえば下り坂の先細りの道がイメージとされているが私の描く老人のイメージは、常にどこ迄も登り道なのである。

たしかに肉体からはさまざまな力が奪われていく。しかし体力の衰えは感じても気力の衰えは許されない。その身体の衰えるだけ精神を磨き続けねばならない。

歳月は皮膚に皺を刻むが、情熱の消滅は魂に皺を刻むのである。人間らしい感情や抑制を担当している前頭葉を鍛え、脳細胞を刺激し頭を使う事は大切だ。

「学ぶ」ーとは、新しい発見の喜びである。人生に卒業はない勉強の連続である。

こゝに老大で学んだ意義がありその実践を高めねばならない。

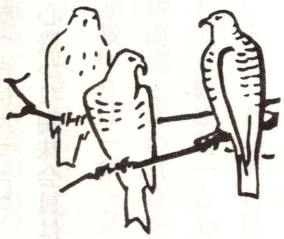
八幡支部会報も第六号を数えるに至った。会員相互の研究、意見其他実践の跡が残されてきた。

地域老人会の協力研鑽にも少しずつではあるが拘っている。同好の部相寄り趣味の奥義も究めあっている。趣味と云えども全力投球であらねばならぬから　。

老大同窓生の誇りを胸に

人に甘えず自立の精神を持って心豊かに、生きる事の愉しみを充分味いみずみずしく命の限り燃焼しつゞけてゆこう。

・つれづれに豪奢・享楽の書繰れば
　青春に似し血汐が滾つ
・猛ける心抑へて生きむと努むれど
　弱きもの吾時に穏しからず
・方形の視野にゐる位置変らねど
　憶ひさまざまのあかときの雲
・光りつつ廃車の窓に流れゐる
　雫は終焉の涙のごとし
・玻璃に映す落日なほも燃えたてり
　虚像といふは惜しき華やぎ



陶芸学科三期生の近況

三期生　吉　川　保三郎

私達第三期生がピカピカの一年生にあらず、シワシワの一年生として入学した時は、陶芸学科は一七名でした。卒業と同時に三期生の会名を「陶味会」と名づけて会則もありませんが、年に四回は陶味会報を発刊しその会報によって、会員の近況を知り、又電話で連絡をとりながら、作陶の出来ばえや、意見、技術の交換をしています。卒業後の今日は、窯を持って、自分の家で楽しんで居る会員は六人あり、何れも、独想的な立派な作陶に最大の喜びを味わっています。年に二回、春と秋は、大津・草津・甲南・彦根・野洲・八幡と、順次持回って此の五月は二度目の一杯会で八幡当番です。此の一杯会は、地域の観光や、地域の文化を紹介しながらの一杯の会でもある訳です。卒業後五年を経過したが、今尚元気盛んな会員許かり、一寸一杯のつもりでもなかなか。仲居さんも酒運びに汗を流してサービスしてくれます。此の五月の連休には、大津の西武百貨店の五階で、手造りの売店コーナーを二店分貸りて、作陶の展示と販売をする事になり、窯を持っている六人が交代、交代で販売と陶味会の案内とを、当番を定めて店に出る事になって居ります。一人当り五〇点位い出品しなければなりませんが、みんな百点位は家に出来上って居る様です。何時も健康で、土と炎の話に

なるとひとかどの評論家であり、その顔つきはニコニコ、そして快活。自分の時間を上手に生かし、心豊かな陶味会員は老いてますます魅力な会員諸兄です。

思いのまゝ

五期生　服部貞一

私は老人大学を昭和五十九年九月に卒業し早や三年目を迎えようとしております。卒業後も同期生の方々と、年二、三回、会合を持ち、懇親を計っております。

又卒業後は、老人大学同窓会近江八幡支部に入会し、現在会計係をしております。私は日頃大変元気なほうですが、昭和五十九年十一月病気の為一時入院を致しましてより、其の後身体が大変よわり、何をしてもすぐつかれが出ると云う状態で、年令的な事もあるかもわかりませんが、其の後は何をするにも、ぼちぼちとやっておりますような現状でご座います。幸いこの冬は暖冬でありました関係か毎年冬にはよく風邪を引くのですが今年はお蔭様で風邪もひかず元気で喜んでおります。

これからは行楽のシーズンとなりますし、少しでも早く身体を鍛え元の通りに元気に仕事が出来るよう願っております。

現在日本は世界の長寿国といわれておりますが、先づ健康でなければ、何もなりません。寝たきりや、ぼけ老人ではつまりません。どうか、皆さん日々充分に気をつけられいつまでもお元気でお過し下さる事を、お祈り致します。

「雑感」

五期生　西川謙逸

安定したかに見えた日本経済も為替相場の円高移行により、今後は多くの問題が生じてきました。

その原因は南北間、先進国間における国際収支の不均衡と国際通貨の不安定です。米国では財政の赤字のため海外の資本の流入が続き対外債務国となりました。米国は又貿易面でも赤字となり、その三分の一は対日赤字です。そのため日米経済摩擦解消の方策は今後の日米間の大きな政治問題となります。日本は内需拡大、市場開放、産業の転換が必要となり、産業界では大きな変化が起りつつあります。我々老人の問題にも種々の変化が起るものと考えます。

とくに政府は老人健康法、各種年金法、所得税の改正等を行い、新しく売上税の実施を行う等高令者の福祉の低下につながる政策を打ち出しました。

今民間ではシルバ産業が成長産業として脚光を浴びてはいます

が、然し高令者の年金は減額され、病気にかかると自己負担金は多くなり、余貯金の金利は減らされて、老人の楽しみの旅行やスポーツ趣味にもあまりお金が使えなくなりつつあります。我国の六十五才以上の人口比率は昭和六十年には一〇％でしたが昭和百年には二三％に達すると云はれる高令化社会になりますが、前途はあまり明るくないとは思はれますが、健康に気を使い、そして明るく、家庭内は円満にして毎日を有意義に暮したいものと思っています。

老大に学びて

六期生　村井　繁一

老大を修了して以来早や二ケ年その後もテキストや実習指導を受けながら技術の磨きに励んでいるこの頃です。老大入学願書を提出する時、専門学科を何にするか迷ったものです。下手ながらも趣味の書道・園芸共に習いたいと思ったがそれは出来ない。七十才も越えこれからは何んとしても健康第一と心掛けることで、積極的に立ち向うこと、晴耕雨読と言われるが年中身体を動かし土に親しむこと、花作り盆栽作りは一朝一夕に出来るものではなく、立派なものを作ろうと大きな希望と花を愛し育て心に豊かさを持つことこそ健康維持する最高のものと園芸科科を第一とし、幸にも希望通り入学することが出来、嶋岡先生の指導を受け接木・取木栽培・管理・実習を併せ懇切なご指導の成果は順調に育っている。藤と言えば紫と思っていたが紅藤・白藤他何十種類あり、接木・実生と現在六鉢出来て開花を待つ楽しみは何にも変えられないものです。年間通じて栽培・管理は、生命のある相手はすべて必要だが菊作りについて作業の一端を拾って見る。

。一月ー三月肥料造り。油粕・骨粉・灰の混合醗酵と切替え乾燥。

。四月ー五月挿芽準備、挿芽と管理腐葉土の乾燥、水苔採集と乾燥。

。六月ー七月苗木の小鉢移植から本鉢への定植。

。七月ー十月三本立支柱立て、脇芽かき、病害虫予防、施肥、輪台付け、花壇陳列

。十一月ー十二月枯葉集め堆肥ふみ込み（腐葉土造り）支柱切り

懸崖作り、福助作り、だるま作りとあるが、挿芽の時期・管理方法も異りますので大輪作りの年間作業を挙げましたが、この作業をすること、健康とは因果であり、これこそ高令社会に於ける私たち高令者の生きがいであり楽しい余生であろうと思う。園芸科で学んだ喜びを感謝しながら花木の世話をする日々である。

私の視た今昔

六期生　小林嘉蔵

明治元年後一二〇年の米価は、明元年六〇瓩一俵が一円六九銭、明三〇年四円一六銭、大元年八円三二銭、昭三年一〇円六〇銭、昭三〇年三九〇二円、四八年一〇三九〇円、五二年一七〇八六円、その後一〇年間一七～八〇〇〇円と殆んど値上らず諸物価と比べ大変安値です。今から六〇年前酒一升が米三升五合で、一日の人夫賃が三升五合、牛肉一〇〇匁二升二合と釣り合っていましたが、六〇年後の今、酒一升米三升七合、牛肉一〇〇匁米二升、労賃一日一千と三倍高です。米作りよりも出稼の方が三倍の利、過去を顧みればドラマおしんそのものです。愈々農繁期が始まれば猫の手も借りたい程忙しい田植、共同炊事迄やって働き続け、熱湯の如き夏の四つ這の田草とりそのお土産として今の老女の腰曲りの多い事、大旱魃ともなれば蚊に刺され乍らの夜の水汲み、台風の間に間に秋の取り入れ夜のあける迄の朝稲抜き、夜の籾擦等々それ所ではない、我々は屑米をたべて上米を供出し、昔から一粒の米も菩薩と教えられ一粒の米が落ちても勿体ない罰があたると拾いあげました。でも米作りも変りました大型機械の御蔭で田植草取り刈入れも殆んど田圃に人影が見えません。体は楽でも機械化貧乏で夫も妻も機械代稼ぎの明け暮れです。時局は変わりました。風速六〇米の台風よりも、二三％の辛い減反割当所ではない毎日の様に日米経済摩擦貿易戦争問題が報道されています。一億二〇〇〇万同胞の命の糧を殆んど海外依存です。生産者消費者の問題所ではない、よもや米迄はと思って居た矢先驚きました昨六一年九月一〇日全米精米業者協会（ＲＭＡ）の米国カリフォルニアの米売りつけ問題です。一応両政府間の話合でＲＭＡの提訴は却下されたものの今後に不気味な火種を残してます。ＮＨＫの報ずる処によるカリフォルニア州水田帯家族経営農場の一例父、子二人で一三四ヘクタール、品種は茎強く倒れない日本種を祖先に持ち反収食味は日本を上回り規模の差一対九三、価格日本の六分の一、土地肥沃高温低湿度病虫害少く好条件ばかりと聞く、私のコメ今昔物語りも紙面が許しません愚論恐縮でした。

―彦根・愛犬支部―

思い出のままに

二期生　元持孫太郎

「温故知新」ふるきをたづねて新しきを知る。私は生れながらの百姓であります。おぢいさんに小学生の頃から籠を背負って牛の草刈りにつれていってもらったこと、また冬の日炬燵で

大きな膝に抱かれながら黒塗りの箸で一字一字ついて「子曰、友あり遠方よりきたる……」などと教えて下さったことが今もはっきりと瞼に浮かびます。いつの間にか、その孫兵衛爺さんの齢になりました。幸い達者で暮らさして頂いて喜びにたえません。「これからの大切な人生を如何に生くべきか」前途に限りない大きな夢を夢みながら一歩一歩大地を踏みしめて「蝸牛ゆっくり登れ富士の山」の意気ごみで体をいよいよ大切にして頑張りたいと考えています。

役　割

三期生　辻　幸夫

昨日農業所得のことで市の税務課にお世話になった。若い人の親切と能率の良さで嬉しくなりつい確定申告をしてしまった。サラリーマン生活が長かったせいか農業の必要経費と老人の特別控除の多いことに何んとなく気のひける思いがした。今回の中曽根さんの売上税は私は消費者であるので買上税である。物の豊富な今日私の育った頃を思い異様な毎日である。自分で作れる物は作り今こそ物を大切にしたい。自分の工夫と発想を大切にしよう、私も時々、片手で事をして失敗する事がある、今日の政治も折角右と左があるのだから上手に両手を使って片手落にならないようにできないものだろうか。以前スポーツの会場で近藤支部長が老人は姿勢を正しくしましようと呼びかけられたことがある。人間は心身共に正しくありたい。人は皆健康を第一に願っている。他人のやり方を鵜呑にしてはいけないが、無意識にしている呼吸にしても大きく吸って小さく吐く、どんな姿勢でもよいから全身一瞬力を入れる但し五回までが適当、汗ばむようになる。歩くことも大切であるがその時同時に歌でも一つのテーマを考える。二つの動作を組合わせる。仕事をしておれば自然と一万歩は軽く歩ける、疲労回復の特効薬である、老いは気から、老人社会のみ別天地ではない。それぞれの役割を見つめて常に活力と自信をもちたいと願っている。

蕗のとう

三期生　西山　弥一郎

春よ来い
早く来い
歩きはじめたミヨチャンが
赤い鼻緒のジョジョはいて
おんもに出たいと待っている。

この様なわらべうたが聞かれる様な季節がやって来た。

今年の様に暖かかった冬でも、老人にとっては春の訪れが待たれるものである。二月の初めころ、よいお天気に誘われて、畑に足を運んで見た。日当りのよい隅に、水仙がもう一尺程に伸びていて、ふっくらと蕾をつけている。食卓の一輪挿にと手を伸すと、傍の枯草の下から小指程の蕗の苔が、うす緑の頭をもたげて居るではありませんか。これはまさに、春の七草に次ぐ迎春草である。この蕗の苔は風味と言い、鮮烈な香りと云いまさに早春の至とも言うべく、味覚の圧巻である。

これから春の酣になって来ると、山椒の花芽は亦一風変った強い香りと風味に晩酌のお相手には何よりである。ともに春の香りとして珍重がられているものである。まさに春ならではの味と香りは天からの尊い贈物である。よろこんで心ゆくまで味いたいものである。来年も、再来年も、その次の春も!!

ゲートボールに寄せて

五期生　西　沢　正　三

現在ゲートボールは花ざかりと云うか日本全国津々浦々に流行した。その間七、八年である。成程老人にとって恰好のスポーツである。頭は使う、運動になる、楽しい面白い、スリルを味う。その結果ボケない健康の増進につながる。今迄知らなかった人と仲良しになる、この心の満足が明日への生活の活力となる。又自分自身今度のゲートボールの練習日はいつかと待つようになる。これがゲートボール流行の原因だと思う。然し最近のゲートボールは勝敗にこだわり過ぎるようになった。勝敗はスポーツをやった結果生れる派生的なものである。ゲートボールの目的は飽迄も親善友好健康の増進にあるはずです。勝敗にこだわる事なくお互に親しく朗かにプレーする事が第一義であることを強く言いたいのです。然しゲートボールは過熱しています、朝の五時からの練習、又炎熱焼くが如き夏の日の試合雨にも風にも負けず練習試合が実施されています。そのことは老人パワーの発揮と言えるでしょう。然し限度を弁える事も大切です。親類の法要に招かれていながらことわってゲートボールの試合に行く、矢張り老人は何を優先さすかじっくり考えるべきでしょう。家庭の和は保たれているか、身勝手な行動はないか、又自分の身体の状態、仲間との関係を考え調和のとれた連帯観を重んじた生活をする事が老人に課せられた心くばりのひとつだと思います。プロ、ノンプロの世界とは一線を引いて考えたいものです。

老大から老人クラブへ

三期生　川　部　伊三郎

私はかねがね老大卒業後は学習を生かして、地域老人クラブに少しでもお役に立ちたいと考えておりました。従って在学中に受けた講義六十二回の全部をもれなくメモした記録は三七〇ページの六冊となり、今日でも貴重な資料として重宝しています。

卒業後単位クラブの会長をつとめましたが、これを老大学習の実践の場として節度ある老ク、さわやかムードでクラブの活性化を目ざしました。幸に優秀老クとして県老連会長より表彰をうけました。

昭和五十七年十月、当時新設された活動推進員を委嘱され、以来四年六ケ月を皆勤に近い状態で奮斗しました。この仕事は各種行事の計画立案から実施まで、会議の資料作りから進行まで、上部団体、町役場各課その他一切の渉外事項資料の蒐集と会報の編集、老連の会計と予算編成、単位クラブへの連絡指導等々、全く寧日なき日々に終始しました。

推進員在任中に二度の海外研修に参加しました。昭和六十年県レクリェーション協会が行った老人対象のハワイ研修には老大現役とOB二八名に交って参加、日系老人グループと親善交流を行うことができました。

六十一年二月、県がレイカディア構想の一環として行った「長寿社会県民海外調査団」二三名（うち老人二名）の一員として、スエーデン、ドイツ、イギリスを訪問福祉先進国の老人施設を見学、現地学習を行いました。

以上のように私は老大に学んだことが契機となって貴重な体験を得たことを幸せに思っています。そして本年四月より、竜王町老人クラブ連合会長をつとめることになりました。

よい仲間を作りましょう

五期生　平　田　タ　ツ

老人大学の二年間、この齢になってこの様な充実した日を与えられた事は想像もしなかった事でした。各界の権威ある先生方のご講義は申すに及びませんが、何よりも得難い多くの友達にめぐり逢えたのは素晴らしい事でした。この出逢い、この仲間づくりの尊さを身を以って知り、これを地域の多くの老人方にもお分けしたいと思いつきました。しかし微力の私には何の方法もありませんでしたが、幸い前年より始めておりましたコーラスによって輪をひろげようと思いました。田舎の事とて交

通事情もあり悩んでおりました処、部員の方々の口コミや何かで、水が浸みていく様にいつしか部員も増え、和気靄々心の交流も生れてまいりました。又草川先生に教えて頂いたフォークダンスや知床旅情の踊等も一緒に踊り、町民運動会に出場三回昨年は男性も交へ百名近い大きな輪が出来ました。コーラスでもフォークダンスも皆楽しみに待っていて下さって「気が晴れる」「お腹が空く」等の声を聞く時涙の出る程嬉しく思います。

この様な形ででも老人大学でうけた感動を生かせた事に感激を覚え卒業して四年目を迎えますが、先生方、友達のお姿を偲び、今尚私の心に新鮮に生きつづけています。

手前味噌を並べましたが、老先短かい自分には「今日のこの日」が大切でございます。運動でも趣味の上ででも、一人でもよい友を多く持ち、心身共に健やかな日々を送る事は長生きの一つの要素と信じます。

老人大学でご一緒させて頂いた皆様、どうぞいつまでもお元気に、よろしくお願いいたします。

思いつくままに

六期生　犬井富美

春をしきりに待った長い冬も、ついこの間の事のように思いますのに、早くも葉桜の季節となり、卒業以来、三度目の春も過ぎようとして居ります。プラタナスの葉影に西日を避けながら名神大津までのバスを待った県庁前を今でも時々思い出します。その街路樹も、若芽が萌え出でて、すがやかに成長している事と思います。

生涯教育を大切に、常に前向きに学ぶ態度を忘れてはならないと、教えられて来た私達は、少しでもそれに近い日々であり度いと、わが町の公民館教室の短歌、コーラス、手芸の三コースに入れて頂きそれぞれによき師と友を得て、年も忘れて習得に励んで居ります。

残り少い人生を考えて見ますと学び度いこと許りですが、いつ果つるとも悔いもなく、お召しの時は従容とみ仏のお導きに従い度いものと思っています。私も四月十日満八十歳の誕生日を迎えました。毎年十五六年下の会員が老人会に入られ新しい息吹きを、会の運営に採り入れて下さるので、それに協力することが大きな社会参加であると思い、皆さんとの和と心のつながりを大切に、無聯に苦しむ事もなく、感謝に充ちた日々を過ごして居ります。先日も湖東地区の同窓会に出席し、国松先生の御臨席を仰ぎ有意義な一ときを過し、文芸科の研修会には、このほど自治功労者として叙勲の栄に、浴された山村氏のお祝を兼ね、ささやかな宴を持ちましたが、心温まる集いとなり、いつまでも変ることなき友情に、心から感謝したことでございい

ました。

なつかしい母校の益々の御発展と諸先生の御健勝をお祈りしつつ、拙い筆を擱きます。

八十にならば読まむと折々に
買ひしが書棚にあまた並べる

父に抱かれ人力車に乗ればその
髭のわが頬に触れ痛かりし思ふ

文久三年と慶応元年に生れし父
母明治四十年吾を生みましぬ

雑　感

七期生　森　本　芳兵衛

県老大在学二年間の成果を今後老人クラブの育成に連合会の活動に寄与したいと思う。

同窓会の皆さんと共にはげましあい助けあいお互に健康に気をつけて各々に楽しく活動し毎日を明るく正しく一歩一歩を大切に生きなければならないと思います。

毎年の県老大の入学生であるが出身地で見ると湖東や湖北の人が少いので教室を県の中央に持つか三度に一度一般教養なれば毎回場所を変えたなれば入学生も全県的になり平均して恩恵を受けるだろうと思います。また県の中央にするか、また校舎の問題にしても早急に建設を是非要望致します。

私達は毎日いろいろな経験を積み重ねているけれど、小出しの正義感や青っぽい情熱にふるい立っていた若い頃と違ってその経験を踏まえながら、また確めながら生きていくようになる仕事の上でああしたらよいとか、人に迷惑がかかるとわかるのも年を重ねて生きて来たからである経験から知恵が精選されて肉体的には衰えても精神的にはかえって強くなるはずだという気がする。

よく言われる美しく老いたいと云う言葉があるどういうのが美しいということなのか私にはよくわからないが、美しいというのは花のようにともたとえられるかも知れない、美しい老年とは花の様な老年とも言ってもよい花それは美の一つの象徴であるよく調和しところによりときによりそれぞれ個性を持っていること花がいつでも一年中同じように咲いていたらそれは美とは言えないのではないか、花はそれぞれの場所でそれぞれの季節に咲くから美しいのであろう。美しい老年を花の様な老年と言うならば年老いてそれぞれの場所でそれぞれの生きかたを充実させているとでも言おうか、美しく老いるということは形の美しさというのでなくて心の問題について言うのではないだ

ろうか、もしそうだとしたら美しく老いると云うのは、最後の日まで前進し登り続ける人生ではないかと思う、私自身そのように生きたいと思います。

葉桜の　皇子山にてゲートボールなす
幸せ満ちいる同窓生の顔

―湖北支部―

黄　金　の　暇

六期生　広　部　庄太郎

私達夫婦は老人大学を芽出度く卒業してから、少し暮しの時間に余裕ができた。田植前の忙しいこの頃であるが花園に遊ぶような気持で楽しく過している。

こんどはＮＨＫの通信教育講座に挑戦して、私は文章講座の自分史に取り組み、妻は書道のかな文字を書いている。

古希は過ぎたこの春も、水田に百俵余の米づくりを続け、麦も二反歩やっているのでそれだけでも結構いそがしい。五月には乗用田植機を繰ってアッと言う間に田面を青くする、少し腰の曲ってきた愛妻は監督を兼ねての下仕事に走りまわっている。

「夫が暇になると、妻は暇をもてあます」と言うが、わが家ではそれどころではなく、いそがしの連続である。

初夏のころ、てつせんの会（六期生文芸科）は再び湖北の尾上に集まることになっている。

竹生島を目の前に一泊する楽しみは待ち遠しい。町の長寿クラブは信楽と甲南にバス旅行する。彦根の古城博にも行ってきた。

妻と二人の日を定めない旅行は次々と沸いてくる。将に黄金暇である。

歓　び

六期生　中　川　寿美子

「おばさん、いくつになったの」「二十三やと思う」と小さな羞らう声が返って来た。「ソー若いネ、お子さんいるの」「いるよ、高校や」と、ア！　誰が見ても七十代のこの人すっかりボケてしまったのだ。彼女は老の花苑と云われる特老の青浄園の住人である。私達は近江町ボランティアグループで当園へ週二回お掃除等の奉仕をしている。当園の充分な看護を受けているこの人達の大半は車椅子の生活で、その他は寝たきりかヨボヨボ歩きであるがその中で彼女はシャンシャン歩き、身なりも美しく装い「御苦労さん」と挨拶したり、寮母さんを差し

置いて指図して私達を弱らせたりするので一寸からかって聞いたのだ。入園者はすべて若い時、所謂過去にしがみついている傾向が著しい。その彼女も半年の間に車椅子の人となった。高令化社会の中で少しでも若く元気な者が、身も心も弱り果てた人達の御世話や話相手になってあげる事に意義を感じ、世間ではボケと侮っているが、この人達に接し私は感謝の心を忘れず健康で長生をし可愛がられる年寄りにならねばと、自分のこれからの生き方も多く学ばして貰っている身の歓びを咀みしめ元気で奉仕の出来る今日を感謝している。

忙中、閑あり

七期生　広部富子

老大のおかげで、ハワイまで研修旅行にいった者たちが、アロハ会を結んで春秋二回も顔をつなぎ、楽しい出合いが約束されている。

先日は竜王の山の上で、近江牛のシャブシャブで舌づつみを打つことができました。

主人は六期生、私は七期生、二人は代わりがわりに老大生の思い出会に出かけます。

誰もが長生きするようになったが、年と共に体力気力は衰え親しい友は先立ち、そして暇だけが余るようになる晩年を、人は如何に生きればよいかと考えるこの頃です。

私の近況

―高島支部―

二期生　三矢博子

老人大学二期生として生活科学科に二年間学びました。その頃は近江八幡が主会場でしたので、高島郡からは琵琶湖を隔て向いに見えるのに回り道して行かねばならず、今の在学生の皆様に比べれば朝は早く、帰りは遅くなったものです。

でも学習は楽しく、立派な先生方にお習いして充実した二年間でした。

卒業後は、老人大学で身につけたものを出来るだけ地域へ還元しようとの思いは強かったのですが仲々みんなのものにはなりませんでした。

私は手芸が好きですので、毎月定期的に老人クラブの女の方、文化協会手芸クラブの人、婦人会の人達に指導迄とは行きませんが、一緒に楽しくやっております。手芸をやり乍ら、気楽に話し時間のたつのも忘れる位です。お蔭様で若い人からお年寄

りの方迄、お友達になり道でお出会いしても気楽に声がかけられる雰囲気になっております。

もう一方で、六十歳台最後の御奉公として、社会教育指導員という役職をいただき、高齢者学級、婦人学級、文化協会庶務という仕事のお手伝いをしております。非常勤で一週間のうち四日出勤、あとの三日間は手芸と母子寡婦福祉のぞみ会（未亡人会）の仕事で、一週間ぎっしり詰まっており、お蔭様で病気をしている暇もありません。

元気で、みんなに喜んでいただける仕事が出来、年齢など忘れているような今日この頃です。

こんなに元気に暮せるのも、若い頃からよく歩いた賜物かなあと思い、これからも惚けないよう、身体を動かし、みなさんと一緒に趣味に生きようと念願しております。

平凡な近況になりましたが、皆様の御健康と御多幸をお祈りして筆を止めます。

安曇川陶芸教室

七期生　駒井　徳左ヱ門

私が陶芸を学んだのは、自分の作った茶碗で茶を飲み、手作りの花瓶の花を眺める生活がしてみたかったからです。

おかげ様で、湯の出の悪い、重たい急須から煎茶をしぼり出したり、手ざわりの悪い抹茶茶碗で、茶筅をかきまわしています。

その都度に、老大をしのび、先生に感謝し、碧水荘をなつかしんでいます。

陶芸教室は、貴生川の、県立福祉センター、碧水荘で、そこは、水口スポーツの森の中にあり、プロサッカーも行われるグランドの外、いろいろの施設や、遊園地に囲まれた美しい所でした。記念の一泊旅行は、花の吉野でありました。

下の千本、中の千本、上の千本の花がすみの彼方、大峯の山々が夕日に染まるを眺め乍ら、陶芸の仲間二〇人が、車坐になって、盃を交しました。

先日、安曇川町にも、陶芸教室を開設したいから、その手ほどきをしてくれないか、との依頼がありました。

私は生来不器用ですので、他の人の作品と比べ、下手なのでみじめな思いをしていましたので、当惑しました。

町にも、陶芸の仕事をしている人はいますが、老大陶芸を学んだのは私だけなので、もっと勉強せよとの、天の声だと思いありがたく引き受けました。

さて、何を用意し、どういう段取りで教室を開いていくか、思案の最中です。

ＮＨＫの、陶芸入門のテキストを読み、テレビ勉強にはげん

でいます。

幸いなことに、大西忠左先生から、信楽の陶園で、個展の御案内をいたゞきました。

信楽へ行って、大西先生から、陶芸教室開設について、教えていたゞきたいと思っています。

さてさて、どんな『あ曇川陶芸教室』が誕生しますか、不安ですが、私の勉強のつもりで、一生懸命、気張っていきます。

友は今 ー

二期生　山本　清左衛門

我が町の愛称は田園の町というデンエンではありませんぞ愛の町というのです。なぜこのように読めるのかは知らないがたしかに農家ばかりの町であり非農家といえども屋敷内には一アール位の畑を持っている。最近は転作のため果樹園や早出し野菜の温室がふえてきた。三ちゃん農作から機械農作に変ってきたので息子夫婦は勤めに出て行きそれが主となり農業は従となっている。土・日曜日は機械と共に農作を片づけて行くので老人の手つだう農作業は少くなった。それがためか老夫婦には孫の守り家庭内の雑用が多くなりとくに家庭野菜の栽培には責任を負うことになったがそれがまた老人の楽しみとなっているようである。

老人は鍬から手をはなし畦の上に腰をおろし巻たばこにライターの火をつけると流れゆく雲を見あげながらうまそうに吸い込むと口先から吹き出した円をつくった煙はまいあがりながら大きくなって消えてゆく「この青空の下で伸びゆく野菜を見ながら働くなんてこんな楽しいことはないがなあーこの地に生れ土と共に育ったのだ耕すことは私の一生の趣味であり健康の基でもあるのだ」と笑顔をつくった。長いたばこの灰の固りが落ちた膝の上で羽ばたきをしていた小虫が驚いてとび去ってゆく「よい世の中になりましたよ、テレビや新聞などがいろいろの情報を知らせてくれるので社会から遠退くこともなく、老人クラブの月例会や旅行もあって多くの人たちと話し合うこともあるでこれ程よい生きがいはないものだ、有難いことでなあー」とたちあがり腰を伸ばして空を見あげた。青い空にはジェットが鰯雲をつくりながら遠くへと消えてゆく。

老いても土を忘れないこの精神は尊いものだ、私は老後の大切なことを忘れているような気がした。

『滋賀県老人大学校同窓会々則』（案）

第一条（名称）

本会は、滋賀県老人大学校同窓会と称する。

第二条（会員）

本会は、滋賀県老人大学校卒業生をもって組織する。

第三条（事務所）

本会の事務所は滋賀県老人大学校本部内におく。

第四条（目的）

本会は、会員の親睦・研修および老大の発展に寄与することを目的とする。

第五条（支部）

本会に支部を設け、前条の目的達成をはかる。

第六条（事業）

本会は、前条の目的を達成するために、左の事業を行なう。

一、総会　二、研修会　三、老大後援活動　四、会報の発行（年一回）　五、その他の事業

第七条（事業部）

本会に事業部をおき、支部長理事をもって構成し各部員は会長が委嘱し、部長は部員の互選による。

一、研修部　二、総務部　三、広報部

第八条（役員および役員の選出・任期）

本会に次の役員を置く。

一、会長　一名、二、副会長　一名、三、理事　各支部　二名（支部長および支部選出者一名）

四、幹事　二名（会員・事務局から各一名）　五、監事　二名

役員の選出方法

。会長および副会長は、役員会によって選出する。

。理事は、各支部から選出する。

。監事は、各支部が交替で二名選出する。

役員の任務

。会　長　　本会を代表する。

。副会長　　会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代行する。

。理　事　　本会の運営にあたる。

。幹　事　　本会の事務を処理する。

。監　事　　会務・会計を監査する。

役員の任期

。役員の任期は二年とする。

第九条（顧問）

本会に顧問をおくことができる。

第十条（経費および会計年度）

本会の経費は、会費をもってこれにあてる。

会費

会費は、A会費とB会費とし

。A会費は、年額一、〇〇〇円

。B会費は、終身額一〇、〇〇〇円

とする。

会計年度

本会の会計年度は毎年度四月一日から始まって、翌年の三月三十一日をもって終わる。

付　則

本会則は、昭和五十五年十月一日から施行する。

（改正）昭和五十七年十月一日から施行する。

（改正）昭和六十年四月一日から施行する。

（改正）昭和六十一年四月一日から施行する。

（改正）昭和六十二年四月一日から施行する。

昭和六十二年度　滋老大同窓会役員名簿

会長　中川長三

副会長　中村標雄

理事（総務）岸田七次

〃（研修）森三郎

〃（広報）中村標雄

〃（研修）菴原忠男

〃（広報）林秀一

〃（総務）後藤猪三郎

〃（研修）丸市喜好

〃（広報）宿谷光次

〃（総務）畑中保治郎

〃（広報）山本秀夫

〃（研修）中嶋庄右衛門

〃（総務）中嶋實

〃（研修）近藤辰次郎

理事（広報）山本清左ヱ門

〃（総務）宮崎程彦

〃（研修）北村甚七

監事　嶋鉄男

〃　大西憲司

幹事（副会長）中村標雄

〃（事務局）片岡徳夫

編集後記

◎滋賀県にとっては、滋賀県老人大学校と其の同窓会に期待されているものが近年想像以上のものがあります。即ちかつて誰もが経験した事のない高齢化社会が必ず到来するからです。

◎滋賀県老人大学校同窓会会報の原稿を四月二十五日と決め、本年度総会に間に合わせました。各支部におかれては、この無理をお聴き届けになり絶大な御協力を賜わりました事を深く感謝致します。

◎会報と云う名称からして、「その名にふさわしい内容であって欲しい」との多くの会員からの御批評を、しかと受けとめ、旧来の名簿式や随想掲載式を少し変更して、各支部の活動状況や同窓会総会に関する事項を加えました。その理由は、会員に現状を充分知って欲しいと念願しているからです。現状は明日の歴史となります。

◎会報を、発刊することにより、会員皆様方の啓蒙に資する目的もありますので、寄稿になった方々の云わんとされている処をよく読み取って下さい。

◎発刊に際して、関係者の方々の御苦労を心から御礼申し上げます。

（広報部長　林　秀一）

会　報

滋賀県老人大学校同窓会

発行　昭和62年5月23日

印刷　吉田印刷所